Canon

IXY 140
IXY 120

カメラユーザーガイド

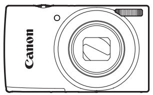
日本語

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」（7）をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- 右下のボタンをクリックすると、ページを移動できます。
  - ▷ : 次のページ
  - ◁ : 前のページ
  - ↺ : リンクをクリックする直前に表示していたページ
- 右端にある章のタイトルをクリックすると、各章の先頭ページに移動します。
  また、章の先頭ページにある項目のタイトルをクリックすると、各項目のページに移動します。

©CANON INC. 2014
CDD-J602-010

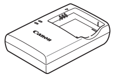
カメラと付属品の確認

お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

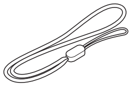


カメラ

バッテリーパック
NB-11LH/NB-11L



バッテリーチャージャー
CB-2LF


リストストラップ

印刷物一式

- メモリーカードは付属されていません（□2）。

使えるカード（市販品）について

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

- SD（エスディー）メモリーカード*
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード*
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード*
- Eye-Fi（アイファイ）カード

＊SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

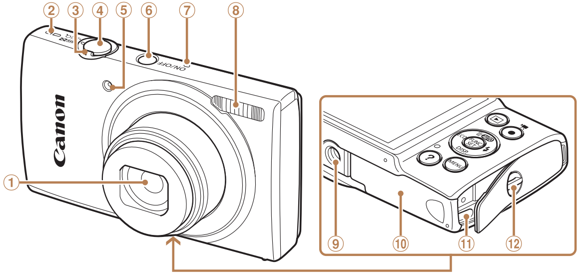
Eye-Fi カードについて

本製品は、Eye-Fi カードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問いあわせください。
また、Eye-Fi カードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

お使いになる前にお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一、カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

各部のなまえと記載について

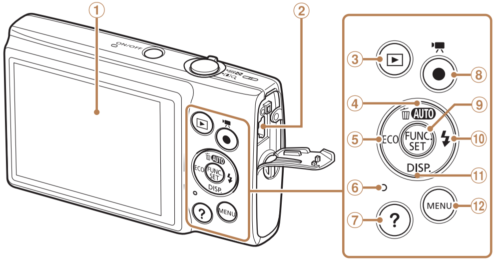


① レンズ
② スピーカー
③ ズームレバー
撮影時：<[♠](望遠)>／<[♠♠♠](広角)>
再生時：<Q(拡大)>／<▦(インデックス)>
④ シャッターボタン
⑤ ランプ（前面）
⑥ 電源ボタン
⑦ マイク
⑧ ストロボ
⑨ 三脚ねじ穴
⑩ カード／バッテリー収納部ふた
⑪ DC カプラー用ケーブル通し部
⑫ ストラップ取り付け部

- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- ⓘ：知っておいていただきたい重要事項を示しています。
- ✎：上手に使うためのヒントや補足事項を示しています。
- 📖xx：参照ページを示しています。xx はページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
- タイトルの上にあるタブは、その機能が静止画や動画で使えるかどうかを示しています。

静止画：静止画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。

動画：動画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。



① 画面（液晶モニター）
② A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子
③ <▶（再生）> ボタン
④ <AUTO(オート)>／<🗑(1 画像消去)>／上ボタン
⑤ <ECO（エコ）>／左ボタン
⑥ ランプ（背面）
⑦ <?（ヘルプ）> ボタン
⑧ 動画ボタン
⑨ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン
⑩ <ϟ（ストロボ）>／右ボタン
⑪ <DISP.(ディスプレイ)>／下ボタン
⑫ <MENU（メニュー）> ボタン

- カメラのボタンは、ボタンに表記されている絵文字を使って示しています。
- 次の操作部材は、絵文字で示しています。

<▲> 背面 ④ 上ボタン
<◀> 背面 ⑤ 左ボタン
<▶> 背面 ⑩ 右ボタン
<▼> 背面 ⑪ 下ボタン

- 機種により異なる機能は、次の絵文字で示しています。

IXY 140：IXY 140 だけの機能や注意事項
IXY 120：IXY 120 だけの機能や注意事項

- このガイドでは、IXY 140 の画面例やイラストを使って説明しています。

目次

カメラと付属品の確認 2
使えるカード（市販品）について 2
お使いになる前にお読みください 3
各部のなまえと記載について 4
目次 5
やりたいこと目次 6
安全上のご注意 7

基本編 10

準備する 11
使ってみる 15

活用編 18

カメラを知る 18

電源の入れかた／切りかた 19
シャッターボタンの押しかた 20
撮影時の画面表示の切り換えかた 20
FUNC.（ファンクション）の表示と操作方法 21
MENU（メニュー）の表示と操作方法 22
ランプの表示 23

オートモード 24

カメラまかせで撮る 25
よく使う機能や便利な機能を使う 30
自分好みの画像を撮るための機能を使う 35
自分好みに機能を変える 37

いろいろな撮影モード 38

かんたんに明るさ、あざやかさ、色あいを変えて撮る（ライブビューコントロール） 39
いろいろなシーンで撮る 39
効果をつけて撮る 41
特殊なモードでいろいろな画像を撮る 44

P モード 46

プログラム AE で撮る（[P] モード） 47
明るさ（露出）に関する機能を使う 47
色あいを調整する（ホワイトバランス） 50
撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う 51
ストロボに関する機能を使う 55
エコモードを使う 57
撮影スタイルにあわせて機能を変える 57

再生モード 60

見る 61
画像を探したり、特定の画像だけを見る 62
いろいろな方法で画像を見る 64
保護する 65
消す 67
回転する 68
静止画を編集する 69

設定メニュー 72

カメラの基本機能を変える 73

アクセサリー 79

システムマップ 80
別売アクセサリー 81
別売アクセサリーの使いかた 83
ソフトウェアを使う 85
印刷する 88
Eye-Fi カードを使う 95

付録 97

故障かな？と思ったら 98
画面に表示されるメッセージ一覧 100
画面の表示内容一覧 102
機能／メニュー一覧 104
日ごろの取り扱いについて 110
主な仕様 110
索引 115

やりたいこと目次

撮る

- カメラまかせで写真を撮りたい（オートモード）........ 25

人を上手に撮りたい

人をきれいに（39）
雪景色で（40）

いろいろなシーンにあわせて撮りたい

暗い場所で（39）
花火（40）

効果をつけて撮りたい

鮮烈な色で（41）
イラスト風に（41）
魚眼レンズのように（41）
ミニチュア模型のように（42）
トイカメラ風に（43）
モノクロで（43）

- 自分好みに効果をつけて撮りたい（ライブビューコントロール）........ 39
- 人の顔を上手に撮りたい........ 25、39、52
- ストロボ禁止の場所で撮りたい（ストロボ発光禁止）........ 32、56
- 自分も一緒に写りたい（セルフタイマー撮影）........ 31、44
- 画像に日付を写し込みたい........ 33

見る

- 画像を見たい........ 61
- 自動再生で見たい（スライドショー）........ 64
- テレビで見たい........ 83
- パソコンで見たい........ 85
- 画像を素早く探したい........ 62
- 画像を消したい........ 67

動画を撮る／見る

- 動画を撮りたい........ 25
- 動画を見たい........ 61

印刷する

- 写真を印刷したい........ 88

残す

- 画像をパソコンに保存したい........ 86

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせて参照してください。

警告	死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップを誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。
電源コードを使用する製品では、電源コードを誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **液体で濡らしたり、内部に液体や異物を入れない。**

感電、火災の原因となります。
液体で濡れたり、内部に液体や異物が入ったときは、バッテリーや電池を使用する製品では、それらを取り外し、家庭用電源を使用する製品では、コンセントから抜いてください。

- **ファインダーがある製品では、ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。**

視力障害の原因となることがあります。

- **家庭用電源を使用する製品では、雷が鳴り出したら製品に触れない。**

感電、火災の原因となります。すぐに使用をやめ、製品から離れてください。

- **指定外のバッテリーや電池は使わない。**
- **バッテリーや電池は火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**

バッテリーや電池が破裂や液漏れし、感電、けが、火災の原因となることがあります。漏れた電解液が、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- **バッテリーチャージャーを使用する製品では、次のことに注意する。**
  - **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
  - **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
  - **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
  - **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**
  - **電源コードを使用する製品では、電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工しない。**

感電、火災の原因となります。

- **カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。**

カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

⚠ 注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **液晶モニターに強い衝撃を与えない。**

液晶モニターが割れると、破片でけがをすることがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

- **次の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40℃を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーや電池の液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

発熱、破損により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

- **長時間画面を見ていると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

- **別売のオプションレンズ、レンズフィルター、フィルターアダプターを使用する製品では、確実に取り付ける。**

緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

- **ストロボが自動昇降する製品では、ストロボが下がるときに指をはさまないようにする。**

けがの原因となることがあります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けない。**

撮像素子やカメラの内部が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使用するときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**
- **ストロボが自動昇降する製品では、ストロボを押し込んだり、つまみ上げたりしない。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

- **使用しないときは、製品からバッテリーや電池を取り外して保管する。**

液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **バッテリーや電池を廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーを使用する製品では、使用しないときはコンセントから外す。また、布などをかけたまま使用しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

- **専用バッテリーを使用する製品では、ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **複数の電池を使用する製品では、充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使用しない。また、電池の「+」「−」端子を逆にして入れない。**

故障の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。また、液晶モニターが閉じられる製品では、液晶モニターを内側に向けて閉じる。**
- **ストラップにアクセサリーを付けない。**

硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

基本編

準備から、撮影、再生までの説明や、各種の基本情報を掲載しています。

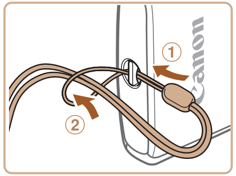
準備する **11**
ストラップを取り付ける 11
カメラを構える 11
バッテリーを充電する 11
バッテリーとカードを入れる 12
日付／時刻を設定する 13
表示言語を選ぶ 14

使ってみる **15**
撮る（こだわりオート）........................... 15
見る 16
ヘルプを表示する 17

準備する

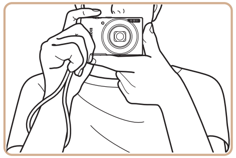
ここでは、撮影前の準備について説明します。

ストラップを取り付ける



- ①ストラップの先端を取り付け部に通して、②通した先端にストラップを通します。

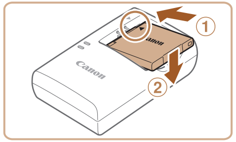
カメラを構える



- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

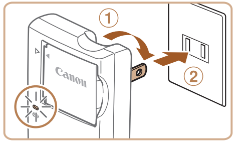
バッテリーを充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、付属のバッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。



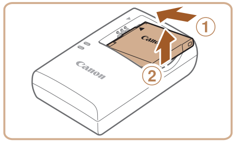
1 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。



2 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- 充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、ランプが緑色に点灯します。



3 バッテリーを取り外す

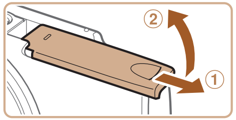
- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。

- 充電に必要な時間、フル充電したバッテリーで撮影できる枚数と時間については、「撮影できる枚数・時間、再生できる時間」（📖111）を参照してください。
- 充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減るため、充電は使う前日か当日にしてください。
- バッテリーチャージャーは、AC100 – 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

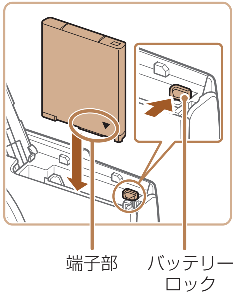
バッテリーとカードを入れる

付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。
なお、新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）（📖75）することをおすすめします。



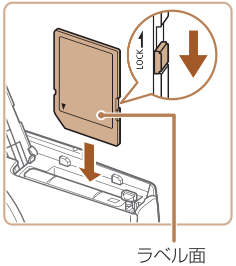
1 ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。



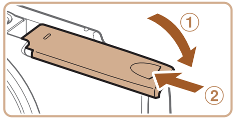
2 バッテリーを入れる

- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。



3 カードのスイッチを確認して、カードを入れる

- スイッチがあるカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると撮影できません。スイッチを解除側に動かします。
- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。

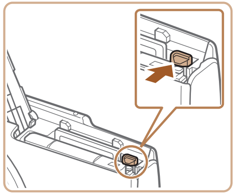


4 ふたを閉める

- ふたを①の方向にたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。
- ふたが閉まらないときは、手順 2 でバッテリーを正しい向きで入れたか確認してください。

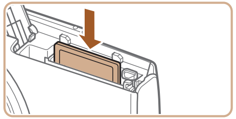
- 1 枚のカードに撮影できる枚数や時間については、「1 枚のカードに撮影できる枚数」（📖112）を参照してください。

バッテリーとカードを取り出す



バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- バッテリーが出てきます。

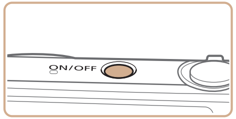


カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。
- カードが出てきます。

日付／時刻を設定する

電源を入れたときに［日付 / 時刻］画面が表示されたときは、現在の日時に正しく設定してください。ここで設定した情報は撮影する画像に記録され、撮影日による管理や、日付を入れて印刷するときなどに使用できます。なお、撮影した日時を画像に写し込むこともできます（33）。

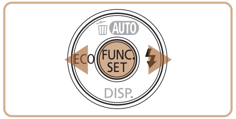


1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ［日付 / 時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- <◀> か <▶> を押して項目を選びます。
- <▲> か <▼> を押して設定します。
- すべての項目を設定したら、<FUNC./SET> を押します。



3 自宅のエリアを設定する

- <◀> か <▶> を押して自宅のあるエリアを選びます。

4 設定を終える

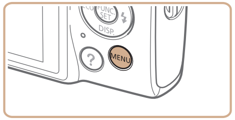
- <FUNC./SET> を押すと設定されて、設定画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

- 日付／時刻や自宅エリアを設定しないと、電源を入れるたびに［日付 / 時刻］画面が表示されます。正しく設定してください。

- 手順 2 で［☀OFF］を選び、<▲> か <▼> を押して［☀］にすると、サマータイム（1 時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。



1 メニューを表示する

- <MENU> ボタンを押します。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

2 ［日付 / 時刻］を選ぶ

- ズームレバーを動かして、［YT］タブを選びます。
- <▲> か <▼> を押して［日付 / 時刻］を選び、<FUNC./SET> を押します。

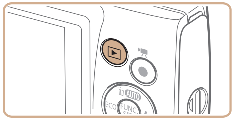
3 日付／時刻を変える

- 「日付／時刻を設定する」の手順 2（□13）の操作で設定します。
- <MENU> ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約 3 週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、AC アダプターキット（別売）（□81）を使うと、カメラの電源を入れなくても約 4 時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付 / 時刻］画面が表示されます。「日付／時刻を設定する」（□13）の操作で正しく設定してください。

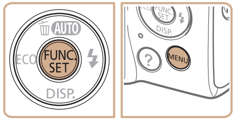
表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。



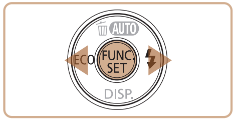
1 再生モードにする

- <▶> ボタンを押します。



2 設定画面を表示する

- <FUNC./SET> を押したまま、<MENU> ボタンを押します。



3 言語を設定する

- <◀> か <▶> を押して言語を選び、<FUNC./SET> を押します。
- 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

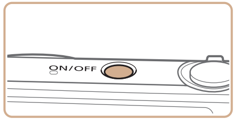
- 言語設定は、<MENU> ボタンを押すと表示されるメニュー画面で、［YT］タブの［言語］を選んで設定することもできます。

使ってみる

ここでは、電源を入れてから静止画や動画を撮影し、その画像を見るまでの手順について説明しています。

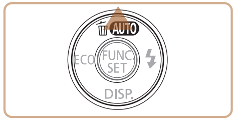
撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- 起動画面が表示されます。



2 ［AUTO］モードにする

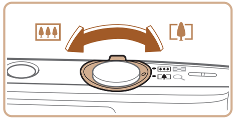
- ［AUTO］が表示されるまで <▲> を何度か押します。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。

IXY 140

- 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます。

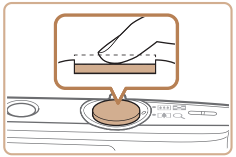
IXY 120

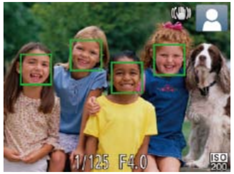
- 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。
- 被写体が検出されたときは、枠が表示されてピントを合わせます。



3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを <[♠]> 側に押すと撮りたいものが大きくなり、<[♠♠♠]> 側に押すと小さくなります。



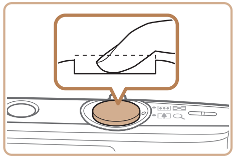


4 撮影する

静止画を撮る

①ピントを合わせる

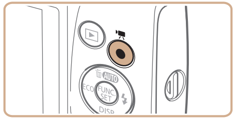
- シャッターボタンを浅く押して、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。



②撮影する

- シャッターボタンを深く押し込みます。
- シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかり持ってください。
- 撮影した画像が表示されたあと、撮影画面に戻ります。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引



動画を撮る

①撮影をはじめる

- 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と 1 回鳴って撮影がはじまり、[●録画] と撮影時間が表示されます。

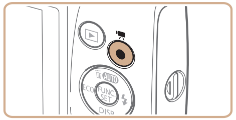
IXY 140

- 画面上下に黒い帯が表示され、被写体が少し大きく表示されます。なお、黒い帯の部分は撮影できません。

IXY 120

- 画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

- 人の顔が検出されているときは、枠が表示されてピントを合わせます。
- 撮影が始まったら動画ボタンから指を離します。

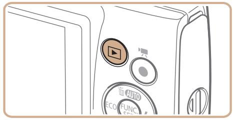


②撮影を終える

- もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、撮影が終わります。

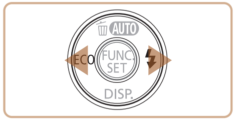
見る

撮影した画像を画面で見ることができます。



1 再生モードにする

- <▶> ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- <◀> を押すと前の画像が表示され、<▶> を押すと次の画像が表示されます。
- <◀> か <▶> を押したままにすると、画像が速く切り換わります。

- 動画では、[SET▶] が表示されます。動画を再生するときは手順 3 に進みます。

3 動画を再生する

- <FUNC SET> を押したあと、<▲> か <▼> を押して［▶］を選び、もう一度 <FUNC SET> を押します。
- 動画が再生され、再生が終わると［SET ▶］が表示されます。
- 音量は<▲>か<▼>を押して調節します。

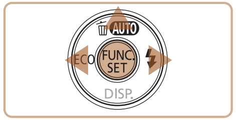
- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

消す

不要な画像を 1 枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 消したい画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選びます。



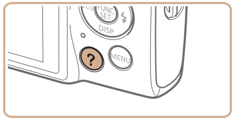
2 消す

- <▲> を押します。
- ［消去?］が表示されたら、<◀> か <▶> を押して［消去］を選び、<FUNC SET> を押します。
- 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、<◀> か <▶> を押して［キャンセル］を選び、<FUNC SET> を押します。

- 画像をまとめて消すこともできます（📖67）。

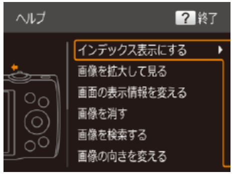
ヘルプを表示する

カメラが判別したシーンの説明や撮影のアドバイス、再生の操作の説明を画面に表示できます。



- < ? > ボタンを押すと、ヘルプが表示されます。
- もう一度 < ? > ボタンを押すと、もとの画面に戻ります。

- 撮影モードでは、カメラが判別したシーンの説明が表示されます。また、シーンによっては、撮影のアドバイスも表示されます。



- 再生モードでは、<▲> か <▼> を押して目的を選ぶと、操作に使うズームレバーやボタンがイラスト上に示されます。
- 目的を選んで、<▶> を押すと操作の説明が表示されます。説明の続きを読むときは、<▲> か <▼> を押します。<◀> を押すと左の画面に戻ります。

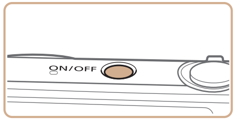
- ［AUTO］以外の撮影モードでは、再生モードと同じようにヘルプを使えます。

カメラを知る

カメラの基本操作をはじめ各種の撮影や再生の他、カメラを活用するための情報などを内容ごとに章分けして説明しています。

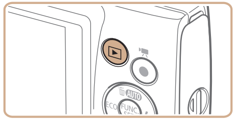
電源の入れかた／切りかた 19
節電機能（オートパワーオフ）............................... 19
シャッターボタンの押しかた 20
撮影時の画面表示の切り換えかた 20
FUNC.（ファンクション）の表示と操作方法 21
MENU（メニュー）の表示と操作方法 22
ランプの表示 23

電源の入れかた／切りかた



撮影モード

- 電源ボタンを押すと電源が入り、撮影できます。
- 電源ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。



再生モード

- <▶> ボタンを押すと電源が入り、撮影した画像を見ることができます。
- <▶> ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。

- 撮影モードの状態で <▶> ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押し（📖20）すると、撮影モードになります。
- 再生モードでは、約 1 分経過するとレンズが収納されます。レンズが収納されているときは、<▶> ボタンを押すと電源が切れます。

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり（ディスプレイオフ）、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約 1 分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約 2 分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（📖20）すると画面が表示され、撮影できます。

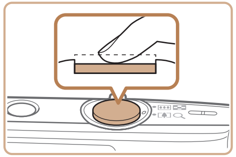
再生モードでの節電機能

約 5 分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ったり、画面が消えるまでの時間を変えたりすることができます（📖74）。
- パソコンとつないでいるとき（📖86）は、節電機能は働きません。

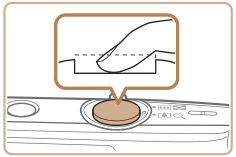
シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、そのまま深く押す「全押し」をして撮影します。
なお、シャッターボタンの操作に関する記載は以降「半押し」、「全押し」と表記しています。



1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、ピントが合った位置に枠が表示されるまで、浅く押します。



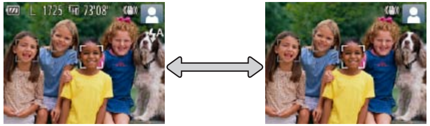
2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

- シャッター音が鳴り、撮影されます。
- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

- シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。
- シャッター音は撮影にかかる時間に応じて長さが変わります。そのため、撮影シーンによってはシャッター音が長くなり、シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

撮影時の画面表示の切り換えかた

画面表示は、<▼> を押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、「画面の表示内容一覧」（📖102）を参照してください。

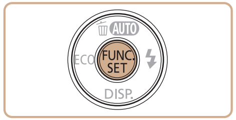


情報表示あり　　情報表示なし

- 暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図を確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。
- 再生時の画面表示については、「表示を切り換える」（📖62）を参照してください。

FUNC.（ファンクション）の表示と操作方法

よく使う機能は、FUNC. で設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード（📖105 ～ 106）や再生モード（📖109）によって変わります。

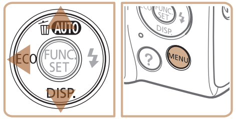


1 FUNC. のメニュー項目を表示する

- <FUNC. SET> を押します。

2 メニュー項目を選ぶ

- <▲> か <▼> を押してメニュー項目を選び、<FUNC. SET> か <▶> を押します。
- メニュー項目によっては、<FUNC. SET> や <▶> を押すだけで設定される機能や画面が切り換わる機能もあります。



3 項目を選ぶ

- <▲> か <▼> を押して項目を選びます。
- ［MENU］が表示される項目では、<MENU> ボタンを押して設定することができます。
- メニュー項目に戻るときは、<◀> を押します。

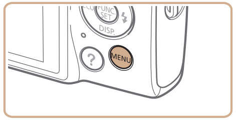
4 設定を終える

- <FUNC. SET> を押します。
- 手順 1 で <FUNC. SET> を押す前の画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（📖78）。

MENU（メニュー）の表示と操作方法

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード（📖107 ～ 109）によって変わります。



1 メニューを表示する

● <MENU> ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

● ズームレバーを動かして、タブを選びます。

● <▲> か <▼> を押してタブが選ばれている状態にしたあと、<◀> か <▶> を押してタブを選ぶこともできます。

3 項目を選ぶ

● <▲> か <▼> を押して項目を選びます。

● 内容が表示されていない項目では、<FUNC. SET> か <▶> を押して画面を切り換えたあと、さらに <▲> か <▼> を押して項目を選びます。

● <MENU> ボタンを押すと切り換える前の画面に戻ります。

4 内容を選ぶ

● <◀> か <▶> を押して内容を選びます。

5 設定を終える

● <MENU> ボタンを押すと、手順 1 で <MENU> ボタンを押す前の画面に戻ります。

● 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（📖78）。

ランプの表示

カメラ背面のランプ（□4）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時（□86）、画面消灯時（ディスプレイオフ）（□19、34、57、74）
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時の撮影中（□45）

- ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像が壊れて表示できなくなったり、カメラやカードが故障する原因になります。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

オートモード

かんたん操作で手軽に撮ったり、いろいろな機能を使ってもう少しこだわった画像を撮る

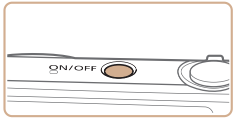
カメラまかせで撮る 25
オートモードで撮る（こだわりオート） 25
シーンのアイコン 28
手ブレ補正アイコン 28
画面に表示される枠 29
よく使う機能や便利な機能を使う 30
被写体をもっと拡大する（デジタルズーム)........30
セルフタイマーを使う 31
ストロボを光らせない 32
日付を写し込む 33
連続して撮る 34
エコモードを使う 34
自分好みの画像を撮るための機能を使う 35
記録画素数（画像の大きさ）を変える 35
赤目自動補正 35
動画の画質を変える 36
目をつむった人を確認する 36
自分好みに機能を変える 37
ランプを切る 37

カメラまかせで撮る

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

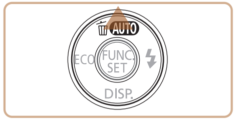
静止画　動画

オートモードで撮る（こだわりオート）



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- 起動画面が表示されます。



2 ［AUTO］モードにする

- ［AUTO］が表示されるまで <▲> を何度か押します。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。

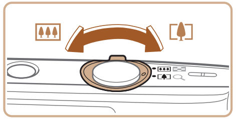
IXY 140

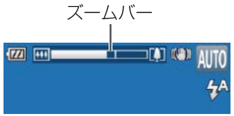
- 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます（📖28）。

IXY 120

- 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます（📖28）。

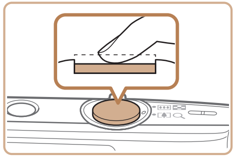
- 被写体が検出されたときは、枠が表示されてピントを合わせます。

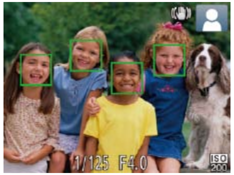




3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを <[♠]> 側に押すと撮りたいものが大きくなり、<[♠♠♠]> 側に押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。



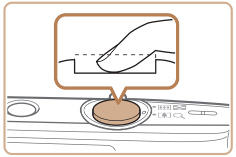


4 撮影する

静止画を撮る

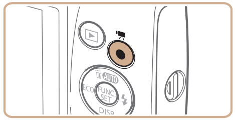
①ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。
- 複数の AF フレームが表示されたときは、表示されたすべての AF フレームにピントが合っています。



②撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかり持ってください。
- 撮影した画像が表示されたあと、撮影画面に戻ります。



動画を撮る

①撮影をはじめる

- 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と 1 回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。

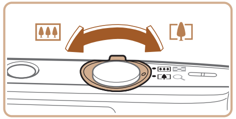
IXY 140

- 画面上下に黒い帯が表示され、被写体が少し大きく表示されます。なお、黒い帯の部分は撮影できません。

IXY 120

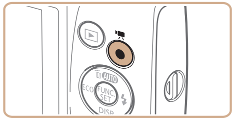
- 画面上下に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

- 人の顔が検出されているときは、枠が表示されてピントを合わせます。
- 撮影が始まったら動画ボタンから指を離します。



②撮りたいものの大きさを変えたり、構図を変える

- 撮りたいものの大きさを変えるときは手順 3（□25）と同じ操作で変えます。ただし、操作音は録音されます。また、倍率が青く表示されたときは画像が粗くなります。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。



③撮影を終える

- もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、撮影が終わります。
- カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

静止画／動画

- <▼> を押したまま電源を入れると音が鳴らなくなります。音が鳴るようにするには、<MENU> ボタンを押して、[ƳՆ] タブの［消音］を選び、<◀> か <▶> を押して［しない］を選びます。

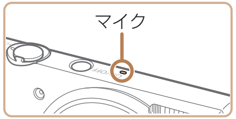
静止画

- ［手ブレ警告］が点滅表示したときは手ブレしやすいため、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。
- ストロボが光ったのに暗い画像になるときは、被写体までの距離が遠すぎます。ストロボ撮影できる範囲については、「ストロボ調光範囲」（📖113）を参照してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と 1 回鳴るときは、撮りたいものが近すぎる可能性があります。ピントが合う範囲（撮影範囲）は、「撮影距離」（📖113）を参照してください。
- 暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためや人の目が赤く写るのを緩和するため、ランプ（前面）が点灯することがあります。
- 撮影しようとしたときに［ϟ］が点滅表示したときは、ストロボ充電中のため撮影できません。充電が終わると撮影できますので、シャッターボタンを全押ししたまま待つか、一度シャッターボタンを離してもう一度押してください。
- 撮影画面に戻る前でも次の撮影はできますが、ピント、明るさ、色あいは、直前の撮影に固定されることがあります。

- 撮影直後に画像が表示される時間を変えることができます（📖58）。

動画

- 長時間の動画撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがありますが故障ではありません。



- 動画撮影するときは、マイクをふさがないよう注意してください。マイクをふさぐと音声が録音されなかったり、こもった音声で録音されることがあります。
- 動画撮影中に動画ボタン以外を操作すると、操作音が録音されるので、注意してください。

IXY 140

- 大きな手ブレを補正するため、撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。撮影前と同じ大きさで撮影したいときは、手ブレ補正の設定を変えてください（📖59）。

IXY 120

- 動画のブレが大きいときは、三脚などでカメラを固定してください。

- 音声はモノラルで録音されます。

静止画 動画

シーンのアイコン

［AUTO］モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

被写体／背景	人			人以外の被写体			背景色
		動いているとき*1	顔の一部が暗いとき*1		動いているとき*1	近いとき	
明るい				AUTO			灰色
逆光			–				
青空を含む				AUTO			水色
逆光			–				
夕景	–					–	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い				AUTO			
三脚使用時	*2	–		*2	–		

＊1 動画撮影では表示されません。
＊2 撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

- 撮影シーンによっては、実際のシーンと異なるシーンのアイコンが表示されたり、思いどおりの効果、色あい、明るさで撮影できないことがあります。そのときは、［P］モード（📖46）で撮影することをおすすめします。

IXY 140

静止画 動画

手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーン IS）されます。また、［AUTO］モードでは以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正（通常）		動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミック）
	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正*（流し撮り）		動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワード）
	マクロ撮影するときの手ブレを補正（ハイブリッド IS）。また、動画撮影中は［ ］が表示され、動画のマクロ撮影に適した手ブレ補正を実施		三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正が不要なため停止。ただし、動画撮影中は［ ］が表示され、風などによる振動の影響を低減するブレ補正を実施（三脚 IS）

＊動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

- ［手ブレ補正］を［切］に設定（📖59）すると、手ブレが補正されなくなり、アイコンも表示されなくなります。

静止画 動画

画面に表示される枠

カメラを被写体に向けて被写体を検出すると、画面上にいろいろな枠が表示されます。

- カメラを被写体に向けると主被写体として検出された顔やものには白の枠、その他の顔には灰色の枠が表示されて、一定の範囲で追尾しピントを合わせ続けます。

  ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色の枠が消えて、白の枠だけになります。
- シャッターボタンを半押しした状態で被写体が動いていると判別したときは、青色の枠が表示されて、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボ AF）。

- 撮影シーンや被写体によっては、「枠が表示されない」、「撮りたい被写体に枠が表示されない」、「背景などに枠が表示される」ことがあります。そのときは、［P］モード（46）で撮影することをおすすめします。

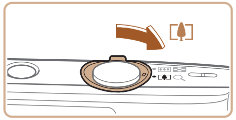
お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

よく使う機能や便利な機能を使う

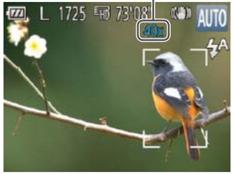
静止画　動画

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大 IXY 140 約 40 倍／ IXY 120 約 32 倍まで拡大できます。



倍率



1 ズームレバーを <[♠]> 側に押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- 画像の粗さが目立たない最大の倍率になるとズームが止まり、ズーム倍率が表示されます。

2 もう一度 <[♠]> 側に押す

- さらにズームして、被写体が拡大されます。

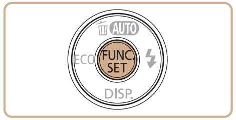
- ズームレバーを操作するとズーム位置を示すズームバーが表示されて、バーの色はズーム領域によって変わります。
  - 白の領域：画像が粗くならない光学ズーム領域
  - 黄色の領域：画像の粗さが目立たないデジタルズーム領域（プログレッシブファインズーム）
  - 青色の領域：画像が粗くなるデジタルズーム領域

  また、設定した記録画素数（□35）によっては青色の領域がないため、手順 1 の操作で最大倍率までズームできます。
- 設定した記録画素数（□35）とデジタルズームの倍率によっては、ズーム倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。

静止画　動画

セルフタイマーを使う

集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約 10 秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

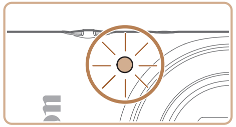


1 設定する

- <FUNC. SET> を押して、メニュー項目の［⏲OFF］を選んだあと、項目の［⏲10］を選びます（📖21）。
- 設定されると［⏲10］が表示されます。

2 撮影する

- 静止画を撮影するときは、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 動画を撮影するときは、動画ボタンを押します。



- タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- 撮影の 2 秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。
- 戻すときは、手順 1 の操作で［⏲OFF］を選びます。

静止画　動画

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約 2 秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

- 「セルフタイマーを使う」の手順 1（📖31）の操作で［⏲2］を選びます。
- 設定されると［⏲2］が表示されます。
- 「セルフタイマーを使う」の手順 2（📖31）の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0 – 30 秒）と、撮影枚数（1 – 10 枚）を設定できます。

1 ［ ］を選ぶ

- 「セルフタイマーを使う」の手順 1（□31）の操作で［ ］を選び、<MENU> ボタンを押します。

2 設定する

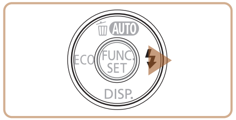
- <▲> か <▼> を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- <◀> か <▶> を押して数値を選び、<FUNC. SET> を押します。
- 設定されると［ ］が表示されます。
- 「セルフタイマーを使う」の手順 2（□31）の操作で撮影します。

- 動画ボタンを押して撮影したときは、設定した［時間］で撮影がはじまりますが、［枚数］は反映されません。

- 撮影枚数を 2 枚以上にしたときは、明るさや色あいは 1 枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を 2 秒以上にしたときは、撮影の 2 秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

ストロボを光らせない

ストロボを光らせないで撮影することができます。

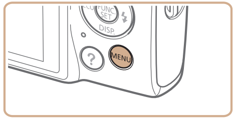


- ［ ］が表示されるまで <▶> を何度か押します。
- ストロボが光らなくなります。
- もう一度 <▶> を押すと、［$⚡^A$］が表示されて、暗いシーンでは、ストロボが自動的に光ります。

- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に［ ］が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

日付を写し込む

画像の右下に撮影したときの日付を写し込むことができます。
なお、写し込まれた日付を消したり、修正することはできませんので、あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（13）。



1 設定する

- <MENU> ボタンを押して、［ ］タブの［日付写し込み］を選び、目的の項目を選びます（22）。
- 設定されると［ ］が表示されます。

2 撮影する

- 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が写し込まれます。
- 戻すときは、手順 1 の操作で［切］を選びます。

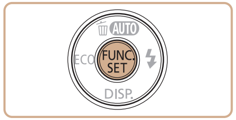
- 写し込まれた日付を消したり、修正することはできません。

- 日付を写し込まなかった画像でも、次の方法で画像に撮影日を入れて印刷することができます。
ただし、日付を写し込んだ画像を同じ方法で印刷すると、日付が二重に印刷されることがあります。
  - プリンターの機能を使って印刷する（89）
  - 印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（91）
  - 弊社 Web サイトからダウンロードしたソフトウェア（85）を使って印刷する

静止画

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。
連続撮影の速度は「連続撮影の速さ」(📖113)を参照してください。



1 設定する

- <FUNC. SET> を押して、メニュー項目の［□］を選んだあと、項目の［連続］を選びます(📖21)。
- 設定されると［連続］が表示されます。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- セルフタイマー(📖31)とは一緒に使えません。
- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

静止画　動画

エコモードを使う

撮影モードでのバッテリーの消耗をおさえる機能です。カメラを操作していないときに、素早く画面を暗くして消費電力をおさえることができます。

1 設定する

- ［ECO］が表示されるまで <◀> を何度か押します。
- カメラを操作しないと約 2 秒後に画面が暗くなり、その 10 秒後に画面が消えます。約 3 分後には電源が切れます。
- もう一度 <◀> を押すと［ECO OFF］が表示されて、エコモードが解除されます。

2 撮影する

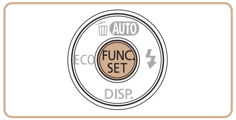
- 画面が消えている状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

自分好みの画像を撮るための機能を使う

静止画

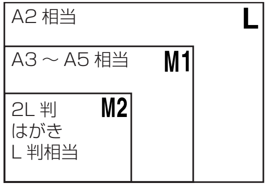
記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を 5 種類から選べます。それぞれの記録画素数で 1 枚のカードに撮影できる枚数については「1 枚のカードに撮影できる枚数」（112）を参照してください。



- <FUNC. SET> を押して、メニュー項目の［L］を選び、目的の項目を選びます（21）。
- 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［L］を選びます。

用紙の大きさで選ぶときの目安

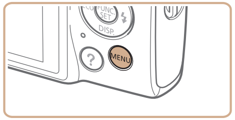


- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。
- ［W］は、HD（ハイビジョン）対応テレビなどの縦横比が 16:9 のワイド画面へ表示するときなどに適しています。

静止画

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。



- <MENU> ボタンを押して、［カメラ］タブの［赤目自動補正］を選び、「入」を選びます（22）。
- 設定されると［赤目］が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

- 化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（70）。

動画の画質を変える

2 種類の画質から選べます。それぞれの画質で 1 枚のカードに撮影できる時間については「1 枚のカードに撮影できる時間」（112）を参照してください。

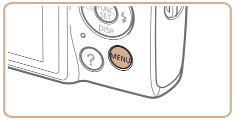
- <FUNC. SET> を押して、メニュー項目の［HD］を選んだあと、目的の項目を選びます（21）。
- 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［HD］を選びます。

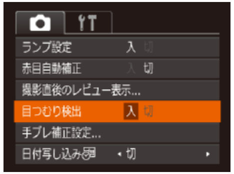
画質	記録画素数	フレーム数	内容
HD	1280 x 720 画素	25 フレーム / 秒	HD（ハイビジョン）画質で撮影できます。
VGA	640 x 480 画素	30 フレーム / 秒	SD（スタンダード）画質で撮影できます。

- ［HD］では、画面の上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、［目つむり］を表示してお知らせします。





1 設定する

- <MENU> ボタンを押して、［カメラ］タブの［目つむり検出］を選び、［入］を選びます（22）。

2 撮影する

- 目をつむった人を検出したときは、［目つむり］が点滅表示されます。
- 戻すときは、手順 1 の操作で［切］を選びます。

- ［セルフタイマー］で撮影枚数を 2 枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- ［表示時間］を［2 秒］、［4 秒］、［8 秒］、または［ホールド］にしているとき（58）は、目をつむった人の顔に枠が表示されます。
- 連続撮影（34）を設定すると［切］固定になります。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

自分好みに機能を変える

MENU の［📷］タブで、カメラの撮影機能を好みの設定に変えることができます。
なお、メニュー機能の操作方法は、「MENU（メニュー）の表示と操作方法」（📖22）を参照してください。

静止画

ランプを切る

暗いところでの撮影では、シャッターボタンを半押ししたときに、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。また、暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- <MENU> ボタンを押して、［📷］タブの［ランプ設定］を選び、［切］を選びます（📖22）。
- 戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

いろいろな撮影モード

いろいろなシーンをより効果的に撮ったり、ユニークな効果や特殊な機能で演出された画像を撮る

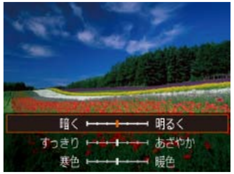
かんたんに明るさ、あざやかさ、色あいを変えて撮る（ライブビューコントロール）....... 39
いろいろなシーンで撮る................................ 39
ブレをおさえて撮る（デジタル IS）.....................40
効果をつけて撮る 41
魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）...41
ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）........42
トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）..43
単色で撮る（モノクロ）..43
特殊なモードでいろいろな画像を撮る............ 44
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）...............44
長秒時露光で撮る（長秒時撮影）..........................45

かんたんに明るさ、あざやかさ、色あいを変えて撮る（ライブビューコントロール）

明るさ、あざやかさ、色あいをかんたんな操作で自分好みに設定して撮影できます。

1 ［LIVE］モードにする

- ［LIVE］が表示されるまで、<▲>を何度か押します。



2 設定する

- <▼>を押して設定画面を表示したあと、<▲>か<▼>を押して項目を選び、画面を見ながら<◀>か<▶>を押して値を設定します。
- <FUNC SET>を押します。

3 撮影する

明るさ	右側にいくほど明るくなり、左側にいくほど暗くなります。
あざやかさ	右側にいくほどあざやかな画像に、左側にいくほどすっきりとした画像になります。
色あい	右側にいくほど赤みの強い暖色系の画像になり、左側にいくほど青みの強い寒色系の画像になります。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 撮影モードを選ぶ

- ［LIVE］が表示されるまで、<▲>を何度か押します。
- <FUNC SET>を押して、メニュー項目の［LIVE］を選んだあと、目的の項目を選びます（📖21）。

2 撮影する

静止画　動画

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

静止画

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。

静止画　動画

雪景色で撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

静止画　動画

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

- [ ] モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。

IXY 140

- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします（59）。

- [ ] モードでは、記録画素数は [M]（ IXY 140 2560 x 1920 画素 / IXY 120 2304 x 1728 画素）に固定されます。
- [ ] モードでは、最適なピント位置に設定されますが、シャッターボタンを半押ししても枠は表示されません。

IXY 120

静止画

ブレをおさえて撮る（デジタル IS）

手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。また、ストロボが光らないシーンでは、連続撮影した画像を合成することにより、手ブレやノイズを軽減します。

1 [ ] モードにする

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（39）の操作で [ ] を選びます。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、ストロボが光らないシーンでは画面の左に [ ] が表示されます。
- [ ] が表示されているときに全押しすると、連続撮影されて画像が合成されます。
- 表示されていないときに全押しすると、1 枚撮影になります。

- [ ] が表示されたときは、連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- シーンによっては、思いどおりの効果が得られないことがあります。

- 三脚を使って撮影するときは、[AUTO] モードで撮影することをおすすめします（25）。
- [ ] モードでは、記録画素数は [M]（2304 x 1728 画素）に固定されます。

効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（39）の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

静止画　動画

鮮烈な色で撮る（極彩色）

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。

静止画　動画

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

- ［ ］［ ］モードでは、撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

静止画

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（39）の操作で［ ］を選びます。

2 効果を選ぶ

- <▼>を押したあと、<◀>か<▶>を押して効果のレベルを選び、<FUNC SET>を押します。
- 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

- 撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

静止画　動画

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。
また、「再生時の速さ」を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 ［ ］を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（39）の操作で［ ］を選びます。
- 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントの合う範囲と位置を指定する

- <▼> を押します。
- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えたり、<▲> か <▼> を押して枠の位置を変えます。

3 動画を撮るときは再生時の速さを選ぶ

- <MENU> ボタンを押したあと、<◀> か <▶> を押して倍速（速さ）を選びます。

4 撮影画面に戻り、撮影する

- <MENU> ボタンを押して撮影画面に戻り、撮影します。

倍速と再生時間の目安（動画を 1 分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約 12 秒
10x	約 6 秒
20x	約 3 秒

- 動画の撮影中は、ズームできません。撮影前に倍率を変えてください。
- 撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

- 手順 2 の画面で <◀> か <▶> を押すと枠が縦になります。<▲> か <▼> を押すと枠が横に戻ります。
- 枠が横のときは <▲> か <▼>、枠が縦のときは <◀> か <▶> を押して、枠の位置を変えます。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- 動画の画質は、静止画の記録画素数で［ L ］を選んだときは［VGA］に、［W］を選んだときは［HD］に固定されます（35）。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

静止画

トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 ［📷］を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（📖39）の操作で［📷］を選びます。

2 色調を選ぶ

- <▼> を押したあと、<◀> か <▶> を押して色調を選び、<FUNC SET> を押します。
- 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	［標準］より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	［標準］より寒色系のトイカメラ風画像になります。

- 撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

静止画　動画

単色で撮る（モノクロ）

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 ［◪］を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（📖39）の操作で［◪］を選びます。

2 色調を選ぶ

- <▼> を押したあと、<◀> か <▶> を押して色調を選び、<FUNC SET> を押します。
- 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

特殊なモードでいろいろな画像を撮る

静止画

人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（52）されると、約２秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順１（39）の操作で［ ］を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

- 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約２秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

- 一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約 15 秒後に撮影されます。
- <▼> を押したあと、<◀> か <▶> を押して枚数を選び、<FUNC SET> を押すと撮影枚数を変えることができます。なお、［目つむり検出］（36）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。

静止画

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

シャッタースピードを 1 ～ 15 秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 [ ] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（□39）の操作で [ ] を選びます。

2 シャッタースピードを選ぶ

- <FUNC./SET> を押して、メニュー項目の［1"］を選んだあと、シャッタースピードを選びます（□21）。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する

- 手順 3 でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが 1.3 秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。

IXY 140

- 三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（□59）。

- ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを［ ］にして撮影します（□55）。

P モード

撮影スタイルにあわせた、ワンランク上の画像を撮る

- ［P］モードになっていることを前提に説明しています。
- ［P］は、Program AE（プログラムエーイー）の略、AE は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
- この章で説明する機能を［P］モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（□104 ～ 108）。

プログラム AE で撮る（［P］モード）............ 47
明るさ（露出）に関する機能を使う............... 47
明るさを変える（露出補正）..................................47
明るさ（露出）を固定する（AE ロック）............48
測光方式を変える...48
ISO 感度を変える..49
明るさを補正して撮る（i- コントラスト）............49
色あいを調整する（ホワイトバランス）.......... 50
撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う .. 51
近くの被写体を撮る（マクロ撮影）.......................51
遠くの被写体を撮る（遠景撮影）...........................51
AF フレームモードを変える..................................51
ピント位置を拡大表示する.....................................54
フォーカス設定を切り換える.................................54
AF ロックで撮る 55
ストロボに関する機能を使う 55
ストロボモードを変える 55
FE ロックで撮る..56
エコモードを使う 57
撮影スタイルにあわせて機能を変える............ 57
グリッドラインを表示する....................................57
デジタルズームを使わない....................................57
撮影直後の画面表示を変える.................................58
手ブレ補正の設定を変える.....................................59

プログラム AE で撮る（[P] モード）

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。

1 [P] モードにする

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1（📖39）の操作で［P］を選びます。

2 目的に応じて各機能を設定（📖47 ～ 59）し、撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。ISO 感度を変えたり（📖49）、被写体が暗いときにストロボを発光させる（📖55）と、適正露出が得られることがあります。
- ［P］モードでも、動画ボタンを押すと動画が撮影できます。ただし、FUNC.（📖21）や MENU（📖22）の一部が動画撮影の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- ［P］モードでの撮影範囲は、「撮影距離」（📖113）を参照してください。

明るさ（露出）に関する機能を使う

静止画 動画

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を 1/3 段ずつ、± 2 段の範囲で補正できます。

- <(FUNC SET)> を押して、メニュー項目の［±0］を選んだあと、<▲> か <▼> を押して画面の表示を見ながら明るさを補正します（📖21）。
- 設定した補正量が表示されます。
- 動画では、露出補正バーが表示された状態で撮影します。
- 静止画では、<(FUNC SET)> を押して設定した補正量が表示された状態で撮影します。

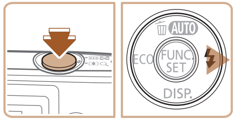
- 静止画では、露出補正バーが表示された状態でも撮影できます。
- 動画撮影中は［AEL］が表示され、露出は固定されます。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

静止画　動画

明るさ（露出）を固定する（AE ロック）

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。



1 ［⚡］にする（📖55）

2 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、<▶> を押します。
- ［AEL］が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度 <▶> を押すと、［AEL］が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

- AE は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

静止画

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

- <FUNC. SET> を押して、メニュー項目の［◉］を選び、目的の項目を選びます（📖21）。
- 設定した項目が表示されます。

◉	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
[ ]	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
[•]	スポット測光	画面中央に表示される［[ ]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。

静止画

ISO 感度を変える

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の［ISO AUTO］を選び、目的の項目を選びます（21）。
- 設定した項目が表示されます。

AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
100、200	低い	晴天の屋外
400、800	↕	曇り空、夕方
1600	高い	夜景、暗い室内

- ISO 感度が［AUTO］のときは、シャッターボタンを半押しすると自動設定された ISO 感度が画面に表示されます。
- ISO 感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO 感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

静止画

明るさを補正して撮る（i- コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

- <MENU> ボタンを押して、［撮影］タブの［i- コントラスト］を選び、［オート］を選びます（22）。
- 設定されると［Ci］が表示されます。

- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（70）。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の［AWB］を選び、目的の項目を選びます（21）。
- 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇り空や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯 H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	マニュアル	マニュアルホワイトバランス（手動設定）（50）

静止画 動画

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 「色あいを調整する（ホワイトバランス）」（50）の操作で［マニュアル］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、<MENU> ボタンを押します。
- 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

- 白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う

静止画

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

[ ] に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「撮影距離」（113）を参照してください。

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の [ ] を選んだあと、項目の [ ] を選びます（21）。
- 設定されると [ ] が表示されます。

- ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、[ ] が灰色表示になりピントが合いません。

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、[ ] で撮影することをおすすめします（31）。

静止画

遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

[ ] に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「撮影距離」（113）を参照してください。

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の [ ] を選んだあと、項目の [ ] を選びます（21）。
- 設定されると [ ] が表示されます。

静止画　動画

AF フレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

- <MENU> ボタンを押して、[ ] タブの [AF フレーム] を選び、目的の項目を選びます（22）。

静止画 動画

顔優先 AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（[AWB] 時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大 2 つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大 9 個）が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大 9 個）が表示されます。
- サーボ AF（53）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AF フレームは表示されません。

静止画

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（キャッチ AF）

ピントを合わせたい被写体を選んで、撮影できます。

1 ［キャッチ AF］を選ぶ

- 「AF フレームモードを変える」（51）の操作で［キャッチ AF］を選びます。
- 画面中央に［⌖］が表示されます。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 被写体に［⌖］が重なるようにカメラを動かします。
- シャッターボタンを半押しすると、［⌖］が青色の［□］に変わり、被写体を追い続けながら、ピントと露出を合わせ続けます（サーボ AF）（53）。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しして撮影します。

- ［サーボ AF］（53）は［入］に固定されます。
- 被写体が小さすぎる、動きが速い、被写体と背景との明暗差や色の差が小さいときは、追尾できないことがあります。
- メニューの［📷］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- ［🌷］［▲］は設定できません。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

静止画　動画

中央

AF フレームが中央 1 点になります。確実なピント合わせに有効です。

- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色の AF フレームと［!］が表示されます。

- 被写体が画像の端や隅にくるよう撮影するときは、被写体に AF フレームをあわせてシャッターボタンを半押しし、この状態で構図を変えてシャッターボタンを全押しして撮影します（フォーカスロック撮影）。

静止画

サーボ AF で撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 設定する

- <MENU> ボタンを押して、［📷］タブの［サーボ AF］を選び、［入］を選びます（📖22）。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色で AF フレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししても AF フレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定している AF フレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を離して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AF ロック撮影はできません。
- MENU（📖22）の［📷］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（📖31）使用時は設定できません。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

静止画

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AF フレーム（ピント合わせの枠）の位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 設定する

- <MENU> ボタンを押して、[ ] タブの［ピント位置拡大］を選び、［入］を選びます（22）。

2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しすると、［顔優先 AiAF］では主被写体として検出された顔が拡大表示され、［中央］では中央の AF フレームが拡大表示されます。

- 次のときはシャッターボタンを半押ししても拡大表示されません。
  - ［顔優先 AiAF］で顔が検出できないとき、顔がカメラに近すぎて画面に対して大きく表示されているとき
  - ［中央］でピントが合わないとき
  - ［キャッチ AF］のとき
  - デジタルズーム（30）をしているとき

静止画

フォーカス設定を切り換える

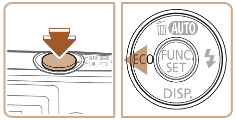
通常は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせるようにすることができます。

- <MENU> ボタンを押して、[ ] タブの［コンティニュアス AF］を選び、［切］を選びます（22）。

入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力をおさえることができます。

AF ロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を離しても、ピント位置は固定されたままになります。



1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、<◀> を押します。
- ピントが固定され、[AFL] が表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度 <◀> を押すと、[AFL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

ストロボに関する機能を使う

ストロボモードを変える

撮影シーンにあわせて、ストロボモードを変えられます。ストロボ撮影できる範囲は、「ストロボ調光範囲」(📖113)を参照してください。

- <▶> を押したあと、<◀> か <▶> を押してストロボモードを選び、<FUNC SET> を押します。
- 設定した項目が表示されます。

[⚡A] オート

暗いところでは自動的にストロボが光ります。

[⚡] 常時発光

ストロボを常に発光させて撮影できます。

[⚡👤] スローシンクロ

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

- [ ] では、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。
- [ ] では、ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

IXY 140

- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします（59）。

[ ] 発光禁止

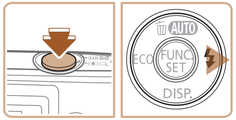
ストロボを光らせないで撮影することができます。

- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に [ ] が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

静止画

FE ロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AE ロック撮影（48）と同様に固定できます。



1 [ ] にする（55）

2 ストロボ露出を固定する

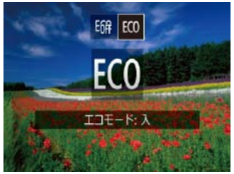
- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、<▶> を押します。
- ストロボが発光し、[FEL] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度 <▶> を押すと、[FEL] が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

- FE は、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略でストロボ露出のことです。

エコモードを使う

撮影モードでのバッテリーの消耗をおさえる機能です。カメラを操作していないときに、素早く画面を暗くして消費電力をおさえることができます。



1 設定する

- <◆> を押したあと、<◀> か <▶> を押して［ECO］を選びます。
- 撮影画面（📖102）に［ECO］が表示されます。
- カメラを操作しないと約 2 秒後に画面が暗くなり、その 10 秒後に画面が消えます。約 3 分後には電源が切れます。

2 撮影する

- 画面が消えている状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

撮影スタイルにあわせて機能を変える

静止画　動画

グリッドラインを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。

- <MENU> ボタンを押して、［📷］タブの［グリッドライン］を選び、［入］を選びます（📖22）。
- 設定されると格子線が表示されます。

- 「グリッドライン」は画像に記録されません。

静止画　動画

デジタルズームを使わない

デジタルズーム（📖30）を使わないようにすることができます。

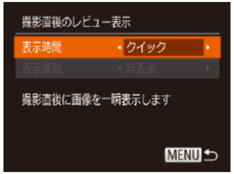
- <MENU> ボタンを押して、［📷］タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます（📖22）。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えたり、画面の表示を変えることができます。

撮影直後の画像表示時間を変える



1 ［撮影直後のレビュー表示］画面を表示する

- <MENU> ボタンを押して、［📷］タブの［撮影直後のレビュー表示］を選び、<FUNC/SET> を押します（22）。

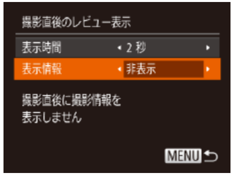
2 設定する

- ［表示時間］を選んでから、設定したい項目を選びます（22）。

クイック	次の撮影ができるようになるまでの間だけ画像を表示します。
２秒、４秒、８秒	設定した時間だけ画像を表示します。画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影ができます。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後に表示される画面を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。



1 ［表示時間］を［2 秒］、［4 秒］、［8 秒］または［ホールド］にする（58）

2 設定する

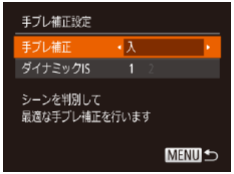
- ［表示情報］を選んでから、設定したい項目を選びます（22）。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（103）になります。

- ［表示時間］（58）で［クイック］または［切］を選んでいるときは、［非表示］に固定されます。
- 撮影直後に画像が表示されているときに <▼> を押すと、表示情報を切り換えられます。ただし、［表示情報］で設定した内容は変わりません。また、<▲> を押して画像を消去したり、<FUNC/SET> を押して保護（65）することができます。

静止画　動画

手ブレ補正の設定を変える



1 設定画面を表示する

- <MENU> ボタンを押して、[📷] タブの［手ブレ補正設定］を選び、<FUNC.SET> を押します（📖22）。

2 設定する

- ［手ブレ補正］を選んでから、目的の項目を選びます（📖22）。

入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーン IS）されます（📖28）。
撮影時*	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

＊動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

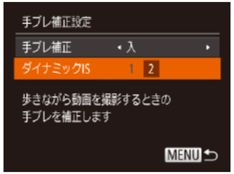
- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。

IXY 140

動画

撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影する

動画撮影では大きな手ブレも補正するため、撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。この大きな手ブレの補正を行わないことで、撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影することができます。



- 「手ブレ補正の設定を変える」（📖59）の操作で［手ブレ補正設定］画面を表示します。
- ［ダイナミック IS］を選んでから、［2］を選びます（📖22）。

- ［手ブレ補正］が［切］のときも、撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影することができます。

再生モード

撮った画像を見て楽しんだり、いろいろな機能を使って画像の検索や編集をする

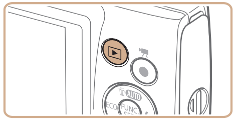
- <▶> ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。

見る 61
表示を切り換える 62
画像を探したり、特定の画像だけを見る 62
一覧表示（インデックス表示）で画像を探す 62
指定した条件で画像を探す 63
いろいろな方法で画像を見る 64
拡大して見る 64
スライドショーで見る 64
保護する 65
メニューから操作する 66
1 枚ずつ指定する 66
すべての画像を指定する 66
消す 67
まとめて消す 67
回転する 68
メニューから操作する 68
自動回転機能を切る 69
静止画を編集する 69
画像を小さくする（リサイズ） 69
明るさを補正する（i- コントラスト） 70
赤目を補正する 70

見る

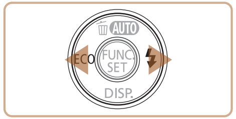
撮影した画像を画面で見ることができます。



1 再生モードにする

● <▶> ボタンを押します。

● 最後に撮影した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

● <◀> を押すと前の画像が表示され、<▶> を押すと次の画像が表示されます。

● <◀> か <▶> を押したままにすると、画像が速く切り換わります。

● 動画では、［SET▶］が表示されます。動画を再生するときは手順３に進みます。

3 動画を再生する

● <FUNC SET> を押したあと、<▲> か <▼> を押して［▶］を選び、もう一度 <FUNC SET> を押すと再生がはじまります。

4 音量を調整する

● <▲> か <▼> を押して調節します。

● 音量バーが消えても、<▲> か <▼> を押して調節することができます。

5 一時停止する

● <FUNC SET> を押すたびに、一時停止／再開できます。

● 再生が終わると［SET▶］が表示されます。

- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。
- 再生モードにしたときに表示される画像を最新の撮影画像からにしたいときは、MENU（📖22）で［▶］タブの［再生開始位置］を選び、［最新の画像］を選びます。
- 画像を切り換えたときの効果を変えるには、MENU（📖22）で［▶］タブの［再生効果］を選び、目的の効果を選びます。

静止画 動画

表示を切り換える

画面表示は、<▼> を押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、「再生時（詳細情報表示）」（📖103）を参照してください。

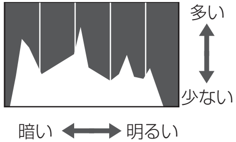
静止画 動画

高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（📖62）にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

静止画 動画

ヒストグラム



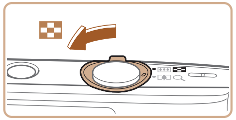
- 「詳細情報表示」（📖62）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

画像を探したり、特定の画像だけを見る

静止画 動画

一覧表示（インデックス表示）で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。



1 一覧表示にする

- ズームレバーを <▦> 側に押すと一覧表示になり、さらに押すと表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーを <🔍> 側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 画像を選ぶ

- <▲><▼><◀><▶> を押して画像を選びます。
- 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。
- <FUNC SET> を押すと選ばれている画像が 1 枚表示になります。

静止画 動画

指定した条件で画像を探す

カード内に多くの画像があるときは、指定した条件で画像を検索して、目的の画像を素早く探せます。また、検索した画像だけをまとめて保護したり（📖65）、消したり（📖67）することもできます。

日付	指定した撮影日の画像を表示
静止画／動画	静止画または動画のみを表示

1 1 つ目の条件を選ぶ

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の［検索］を選び、条件を選びます（📖21）。

2 2 つ目の条件を選ぶ

- <▲><▼><◀><▶> を押して条件を選び、<FUNC SET> を押します。

3 検索した画像を見る

- 検索した画像が黄色の枠つきで表示され、<◀> か <▶> を押すと検索した画像だけを見ることができます。
- 検索した画像の表示を解除するときは、手順 1 の操作で［検索解除］を選びます。

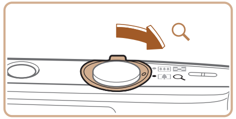
- 目的の条件と一致する画像がないときは、条件を選ぶことはできません。

- 手順 3 で <▼> を押すと、情報の非表示／表示を切り換えられます。
- 検索した画像を表示しているとき（手順 3）は、「一覧表示（インデックス表示）で画像を探す」（📖62）、「拡大して見る」（📖64）、「スライドショーで見る」（📖64）などの操作で画像を見ることもできます。また、「保護する」（📖65）、「まとめて消す」（📖67）、「印刷指定（DPOF）」（📖91）、「フォトブック指定」（📖93）で［検索したすべての画像を指定］を選ぶと、検索した画像だけをまとめて操作することができます。
- 画像を編集して新規保存（📖69 ～ 71）などを行うとメッセージが表示されて、検索した画像の表示が解除されます。

いろいろな方法で画像を見る

静止画

拡大して見る



表示位置の目安

1 拡大する

- ズームレバーを <Q> 側に押すと拡大表示になり、押したままにすると最大約 10 倍まで拡大できます。
- ズームレバーを <▦> 側に押すと縮小表示になり、押したままにすると 1 枚表示に戻ります。

2 表示位置を移動したり、画像を切り換える

- <▲><▼><◀><▶> を押すと、表示位置が移動します。
- ［SET ⧉］が表示されている状態で <FUNC./SET> を押すと［SET ⧉］表示に切り換わり、<◀> か <▶> を押すと拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度 <FUNC./SET> を押すともとに戻ります。

- 拡大表示のときに <MENU> ボタンを押すと、1 枚表示に戻すことができます。

静止画　動画

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。画像 1 枚あたりの表示時間は約 3 秒です。

- <FUNC./SET> を押して、メニュー項目の［⧉］を選び、目的の項目を選びます（📖21）。
- ［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- <MENU> ボタンを押すと終わります。

- スライドショー中に節電機能（📖19）は働きません。

- 再生中に <FUNC./SET> を押すと一時停止／再開ができます。
- 再生中に <◀> か <▶> を押すと画像を切り換えられ、<◀> か <▶> を押したままにすると早送りできます。
- 検索（📖63）しているときは、対象の画像のみが再生されます。

設定を変える

スライドショーの繰り返しや再生画像 1 枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果（再生効果）を変えられます。

1 設定画面を表示する

- <MENU> ボタンを押して、[▶] タブの［スライドショー］を選びます（📖22）。

2 設定する

- 設定するメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（📖22）。
- ［スタート］を選んで <FUNC SET> を押すと、設定した内容でスライドショーがはじまります。
- <MENU> ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

静止画 動画

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（📖67）で誤って消さないよう、保護することができます。

- <FUNC SET> を押して、メニュー項目の［O┳］を選ぶ（📖21）と、［保護しました］が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度［O┳］を選び、<FUNC SET> を押します。

- カードを初期化（📖75、76）すると、保護された画像も消えます。

- 保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

メニューから操作する

1 設定画面を表示する

- <MENU> ボタンを押して、[▶] タブの［保護］を選びます（📖22）。

2 指定方法を選ぶ

- 目的のメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（📖22）。
- <MENU> ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

3 保護する

- <MENU> ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC SET> を押します。

- 手順 3 の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

1 枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 「メニューから操作する」の手順 2（📖66）の操作で［画像指定］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 画像を選び指定する

- <◀> か <▶> を押して画像を選び、<FUNC SET> を押すと［🔑］が表示されます。
- もう一度 <FUNC SET> を押すと［🔑］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- 「メニューから操作する」の手順 2（📖66）の操作で［すべての画像を指定］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 保護する

- <▲> か <▼> を押して［保護］を選び、<FUNC SET> を押します。

- 手順 2 で［解除］を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

静止画　動画

消す

不要な画像を 1 枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻せないので十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像（📖65）は消えません。

1 消したい画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選びます。

2 消す

- <▲> を押します。
- ［消去？］が表示されたら、<◀> か <▶> を押して［消去］を選び、<FUNC SET> を押します。
- 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、<◀> か <▶> を押して［キャンセル］を選び、<FUNC SET> を押します。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像はもとに戻せないので十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像（📖65）は消えません。

指定方法を選ぶ

1 設定画面を表示する

- <MENU> ボタンを押して、［▶］タブの［消去］を選びます（📖22）。

2 指定方法を選ぶ

- <▲> か <▼> を押して指定方法を選び、<FUNC SET> を押します。
- <MENU> ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1 枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」の手順 2（📖67）の操作で［画像指定］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 画像を選ぶ

- 「1 枚ずつ指定する」の手順 2（📖66）の操作で画像を選ぶと、［✓］が表示されます。
- もう一度 <FUNC./SET> を押すと［✓］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

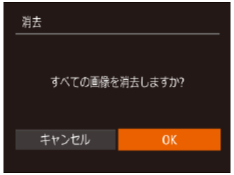
3 消す

- <MENU> ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC./SET> を押します。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」の手順 2（📖67）の操作で［すべての画像を指定］を選び、<FUNC./SET> を押します。



2 消す

- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC./SET> を押します。

静止画

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 ［回転アイコン］を選ぶ

- <FUNC./SET> を押して、メニュー項目の［回転アイコン］を選びます（📖21）。

2 回転する

- <◀> か <▶> を押すと指定した方向に 90 度単位で回転し、<FUNC./SET> を押すと設定されます。

メニューから操作する

1 ［回転］を選ぶ

- <MENU> ボタンを押して、［▶］タブの［回転］を選びます（📖22）。

2 回転する

- <◀> か <▶> を押して画像を選びます。
- <FUNC SET> を押すたびに 90 度単位で回転します。
- <MENU> ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

● [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません (📖69)。

自動回転機能を切る

カメラの向きに応じて画像を自動回転する機能を使わないようにすることができます。

- <MENU> ボタンを押して、[▶] タブの [縦横自動回転] を選び、項目の [切] を選びます (📖22)。

● [切] にすると、画像の回転 (📖68) はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。

静止画を編集する

● 静止画の編集機能 (📖69 ～ 71) は、カードに空き容量がないと使えません。

静止画

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 [リサイズ] を選ぶ

- <MENU> ボタンを押して、[▶] タブの [リサイズ] を選びます (📖22)。

2 画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選び、<FUNC SET> を押します。

3 大きさを選ぶ

- <◀> か <▶> を押して大きさを選び、<FUNC SET> を押します。
- [新規保存しますか ?] が表示されます。

4 新規保存する

- <◀> か <▶> を押して [OK] を選び、<FUNC SET> を押します。
- 別画像として保存されます。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

5 画像を確認する

- ● <MENU> ボタンを押すと［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ● <◀> か <▶> を押して［はい］を選び、<FUNC SET> を押します。
- ● 保存した画像が表示されます。

● 記録画素数が［S］［W］の画像（📖35）は、編集できません。

● 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。

静止画

明るさを補正する（i- コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は 4 種類から選べ、別画像として保存できます。

1 ［i- コントラスト］を選ぶ

- ● <MENU> ボタンを押して、［▶］タブの［i- コントラスト］を選びます（📖22）。

2 画像を選ぶ

- ● <◀> か <▶> を押して画像を選び、<FUNC SET> を押します。

3 項目を選ぶ

- ● <◀> か <▶> を押して項目を選び、<FUNC SET> を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- ●「画像を小さくする（リサイズ）」の手順 4 ～ 5（📖69 ～ 70）の操作を行います。

- ● 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- ● 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

● ［オート］で思いどおりに補正されないときは、［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

静止画

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- ● <MENU> ボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選びます（📖22）。

2 画像を選ぶ

- ● <◀> か <▶> を押して画像を選びます。

3 補正する

- <FUNC/SET> を押します。
- 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（64）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- <▲><▼><◀><▶> を押して［新規保存］を選び、<FUNC/SET> を押します。
- 別画像として保存されます。
- 「画像を小さくする（リサイズ）」の手順５（70）の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順４で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

設定メニュー

カメラの基本機能を変えて使いやすくする

カメラの基本機能を変える 73
音を鳴らさない..73
音量を変える...73
機能の説明を表示しない 73
日付／時刻を変える 73
世界時計を使う...74
レンズ収納時間を変える 74
節電機能（オートパワーオフ）の設定を変える..74
画面の明るさを変える 75
起動画面を表示しない 75
カードを初期化する 75
画像番号のつけかたを変える...............................76
フォルダを撮影日ごとに作る...............................77
認証マークを確認する 77
表示言語を変える 77
その他の基本機能を変える...................................77
カメラの設定を初期状態に戻す 78

カメラの基本機能を変える

MENU（22）の［ƒT］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます。

音を鳴らさない

カメラの各種動作音や動画再生時の音声を鳴らさないようにできます。

- ［消音］を選び、［する］を選びます。

- <▼> を押したまま電源を入れても、音を鳴らさないようにできます。
- 音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき（61）の音声も鳴らなくなります。動画再生中に <▲> を押すと音声が鳴り、<▲> か <▼> を押すと音量を調整できます。

音量を変える

カメラの各種動作音の音量を変えられます。

- ［音量］を選び、<FUNC. SET> を押します。
- 項目を選び、<◀> か <▶> を押して音量を変えます。

機能の説明を表示しない

FUNC.（21）で項目を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。

- ［機能ガイド］を選び、［切］を選びます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

- ［日付 / 時刻］を選び <FUNC. SET> を押します。
- <◀> か <▶> を押して項目を選び、<▲> か <▼> を押して設定します。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。
なお、世界時計を使うには、あらかじめ「日付／時刻を設定する」（13）で日付／時刻と自宅エリアを設定してください。

1 訪問先のエリアを設定する

- [エリア設定] を選び、<FUNC SET> を押します。
- <▲> か <▼> を押して [✈訪問先] を選び、<FUNC SET> を押します。
- <◀> か <▶> を押して訪問先エリアを選びます。
- <▲> か <▼> を押して [☀OFF] を選び、<◀> か <▶> を押して [☀] にすると、サマータイム（1 時間プラスされます）に設定されます。
- <FUNC SET> を押します。

2 訪問先のエリアに切り換える

- <▲> か <▼> を押して [✈訪問先] を選び、<MENU> ボタンを押します。
- 撮影画面（102）に [✈] が表示されます。

- [✈] の状態で日付／時刻を変える（13）と、[🏠自宅] の日時も自動的に変わります。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から <▶> ボタンを押して約 1 分経過すると、安全のためレンズが収納されます（19）。<▶> ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0 秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、［0 秒］を選びます。

節電機能（オートパワーオフ）の設定を変える

節電機能（オートパワーオフ）を切ったり、画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）を変えたりできます（19）。

- ［節電］を選び、<FUNC SET> を押します。
- 項目を選んだあと、<◀> か <▶> を押して設定を変えます。

- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は、［オートパワーオフ］を［入］にし、［ディスプレイオフ］を［1 分］以下にすることをおすすめします。

- ［ディスプレイオフ］は、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。
- エコモード（34、57）を［ECO］にしているときは、節電機能は使えません。

画面の明るさを変える

画面の明るさを変えられます。

● ［液晶の明るさ］を選び、<◀> か <▶> を押して明るさを変えます。

● 撮影画面や再生モードで 1 枚表示のときに <▼> を 1 秒以上押したままにすると、画面が最高の明るさになります（［YT］タブの［液晶の明るさ］設定は無効になります）。もう一度 <▼> を 1 秒以上押したままにするか、電源を入れなおすと、もとの明るさに戻ります。

起動画面を表示しない

電源を入れたときに、起動画面を表示しないようにできます。

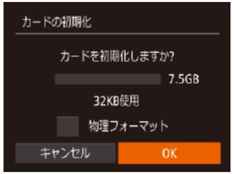
● ［起動画面］を選び、［切］を選びます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから初期化をしてください。
また、Eye-Fi カード（📖95）では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

1 ［カードの初期化］画面を表示する

● ［カードの初期化］を選び <FUNC SET> を押します。



2 ［OK］を選ぶ

● <▲> か <▼> を押して［キャンセル］を選んだあと <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC SET> を押します。

3 初期化する

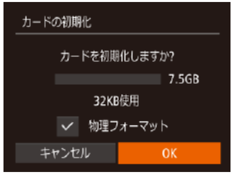
● <▲> か <▼> を押して［OK］を選び、<FUNC SET> を押すと初期化がはじまります。
● 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されるので、<FUNC SET> を押します。

● カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

カードを物理フォーマット（初期化）する

［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。



- 「カードを初期化する」の手順 2（📖75）の画面で、<▲>か<▼>を押して［物理フォーマット］を選び、<◀>か<▶>を押して［✓］を表示します。
- 「カードを初期化する」の手順 2 ～ 3（📖75）の操作で、初期化（物理フォーマット）します。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードを初期化する」（📖75）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に 0001 ～ 9999 の番号がつけられ、1 つのフォルダに 2000 枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

- ［画像番号］を選び、目的の項目を選びます。

通し番号	画像番号 9999 の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が 0001 に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号 0001 の画像から順に保存したいときは、初期化（📖75）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアの使用説明書」（📖85）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

● ［フォルダ作成］を選び、［毎日］を選びます。
● 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

認証マークを確認する

このカメラが対応している認証マークの一部は、画面に表示して確認できます。また、その他の認証マークは、本ガイドやカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ［認証マーク表示］を選び、<FUNC./SET> を押します。

表示言語を変える

画面に表示される言語を変えられます。

● ［言語］を選び <FUNC./SET> を押します。
● <◀> か <▶> を押して言語を選び、<FUNC./SET> を押します。

● 再生モードにして、<FUNC./SET> を押したまま、すぐに <MENU> ボタンを押すことでも言語画面を表示できます。

その他の基本機能を変える

次の機能も［ƒ†］タブで設定できます。

● ［ビデオ出力方式］（□83）
● ［Eye-Fi 設定］（□95）

カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 ［カメラ設定初期化］画面を表示する

- ［カメラ設定初期化］を選び、<FUNC/SET> を押します。

2 初期状態に戻す

- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC/SET> を押します。
- カメラが初期状態に戻ります。

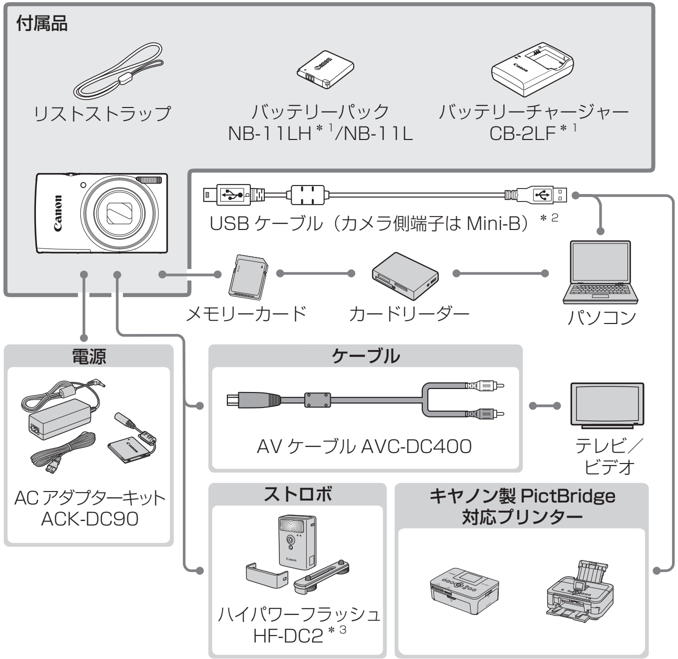
- 次の機能は初期状態に戻りません。
  - ［¥†］タブの［日付/時刻］（□73）、［エリア設定］（□74）、［言語］（□77）、［ビデオ出力方式］（□83）
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（□50）
  - 撮影モード（□39）

アクセサリー

別売アクセサリーや市販の対応機器を使って楽しみかたを広げる

システムマップ 80
別売アクセサリー 81
電源 81
ストロボ 81
その他 81
プリンター 82
別売アクセサリーの使いかた 83
テレビで見る 83
家庭用電源でカメラを使う 84
ソフトウェアを使う 85
ソフトウェアについて 85
パソコンの環境を確認する 85
インストールする 85
画像をパソコンに取り込む 86
印刷する 88
かんたん印刷 88
印刷設定をする 89
動画を印刷する 91
印刷指定（DPOF） 91
フォトブック指定 93
Eye-Fi カードを使う 95
通信情報を確認する 95
Eye-Fi 通信をしない 96

システムマップ



＊1 別売りも用意されています。
＊2 キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-400PCU）もあります。

IXY 120

＊3 ハイパワーフラッシュ HF-DC1 もお使いになれます。

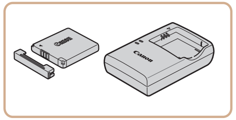
アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。
アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源



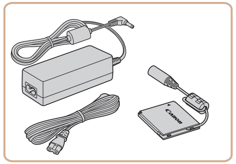
バッテリーパック NB-11LH

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LF

- バッテリーパック NB-11LH および NB-11L 用のバッテリーチャージャーです。

- バッテリーには、カバーがついているので、充電したバッテリーは ▲ が見えるように、充電前のバッテリーは ▲ が隠れるようにカバーを取り付けると、充電状態を見分けることができます。
- バッテリーパック NB-11L もお使いになれます。
- バッテリーチャージャー CB-2LD もお使いになれます。

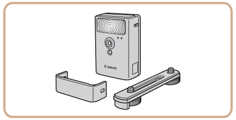


AC アダプターキット ACK-DC90

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、この AC アダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

- バッテリーチャージャーや AC アダプターキットは、AC 100 – 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。
- プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ



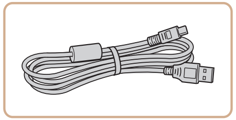
ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。

IXY 120

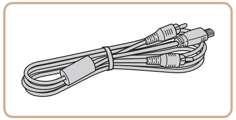
- HF-DC1 もお使いになれます。

その他



インターフェースケーブル IFC-400PCU

- パソコンやプリンターとカメラをつなぐケーブルです。

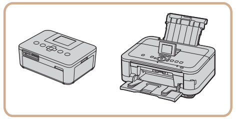


AV ケーブル AVC-DC400

- 撮影した画像をテレビに表示して楽しめます。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

プリンター



キヤノン製 PictBridge 対応プリンター

- キヤノン製のPictBridge対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログで確認していただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

静止画　動画

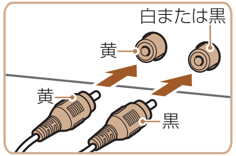
別売アクセサリーの使いかた

静止画　動画

テレビで見る

AV ケーブル AVC-DC400（別売）でカメラとテレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。
なお、お使いになるテレビとのつなぎかたや入力の切り換えかたについては、テレビの使用説明書を参照してください。

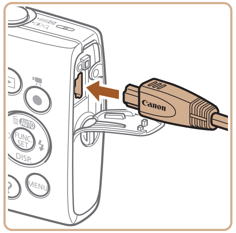
- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります（□103）。



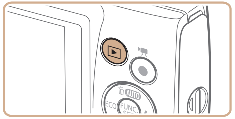
1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの外部入力端子へしっかりと差し込みます。



- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。



3 テレビの電源を入れて、外部入力に切り換える

- テレビの入力を、手順 2 の操作でつないだ外部入力に切り換えます。

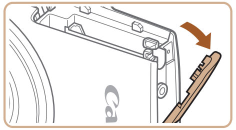
4 カメラの電源を入れる

- <▶> ボタンを押して電源を入れます。
- 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

- 出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。<MENU> ボタンを押して、［🔧］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

家庭用電源でカメラを使う

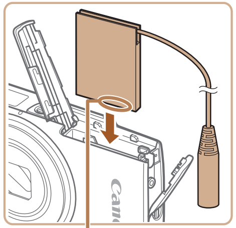
AC アダプターキット ACK-DC90（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。



1 カメラの電源を切る

2 ふたを開ける

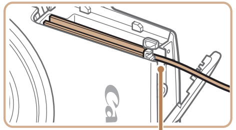
- 「バッテリーとカードを入れる」の手順 1（12）の操作でカード／バッテリー収納部のふたを開き、図のように通し部のふたを開きます。



端子部

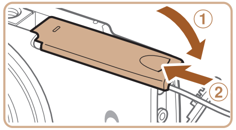
3 カプラーを入れる

- カプラーを図の向きにして、「バッテリーとカードを入れる」の手順 2（12）のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。



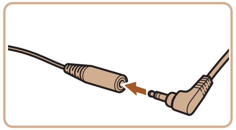
通し部

- カプラーのケーブルを通し部に通します。



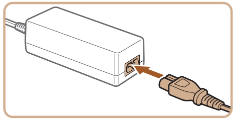
4 ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。



5 電源コードを取り付ける

- カプラーのケーブルの端子にアダプターのプラグを差し込みます。



- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

ソフトウェアを使う

ここでは、弊社 Web サイトからダウンロードするソフトウェアの紹介のほか、インストール方法、画像をパソコンに取り込む方法について説明します。

ソフトウェアについて

ソフトウェアを弊社 Web サイトからダウンロードしてインストールすると、パソコンで次のようなことができます。

CameraWindow（カメラウィンドウ）

- 画像の取り込みやカメラの各種設定

ImageBrowser EX（イメージブラウザー イーエックス）

- 画像の閲覧をはじめ、検索や整理などの画像管理
- 画像の印刷や各種の編集

- インターネットに接続できる環境が必要なため、プロバイダーとの接続料金や通信料金が別途かかります。

ソフトウェアの使用説明書

ソフトウェアを使うときに参照してください。各ソフトウェアのヘルプ機能から参照することができます（一部のソフトウェアは除く）。

パソコンの環境を確認する

ソフトウェアがお使いになれるパソコンは以下のとおりです。詳細なシステム構成や最新の OS を含む対応状況については弊社 Web サイトを確認してください。

	Windows	Mac OS
OS	Windows 8/8.1 Windows 7 SP1 Windows Vista SP2 Windows XP SP3	Mac OS X 10.9 Mac OS X 10.8 Mac OS X 10.7

- 最新の OS を含む対応状況については弊社 Web サイトを確認してください。

インストールする

ここでは、Windows 7 と Mac OS X 10.8 を使って説明をしています。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットへ接続し、「http://cweb.canon.jp/e-support/software/index.html」に接続します。
- ソフトウェアをダウンロードします。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

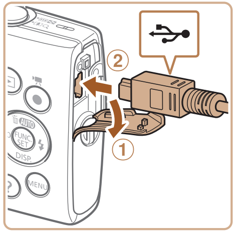
2 インストールする

- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- お使いのパソコンやインターネット環境によってはインストールに時間がかかることがあります。
- インストールを終えると表示される画面の［完了］または［再起動］をクリックします。

- ソフトウェアは、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などをインターネットを使って行います（一部のソフトウェアは除く）。
- はじめてカメラとパソコンをつないだときにドライバーがインストールされるため、操作ができるようになるまでに時間がかかることがあります。

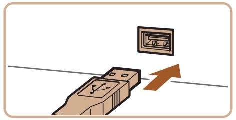
画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windows 7 と Mac OS X 10.8 を使って説明をしています。その他の機能については、各ソフトウェアのヘルプ機能から参照することができます（一部のソフトウェアは除く）。

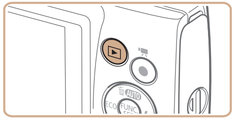


1 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源が切れた状態でふたを開き（①）、USB ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。



- USB ケーブルの大きい方のプラグをパソコンの USB 端子に差し込みます。パソコンの USB 端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。



2 電源を入れて CameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

- <▶> ボタンを押して電源を入れます。
- Mac OS では、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindow が表示されます。

- Windows では、以下の操作を行います。
- 表示された画面で［ ］のプログラムを変えるためのリンクをクリックします。

- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。

- ［ ］をダブルクリックします。

CameraWindow

3 画像を取り込む

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。
- 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの <▶> ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアの使用説明書」（📖85）を参照してください。

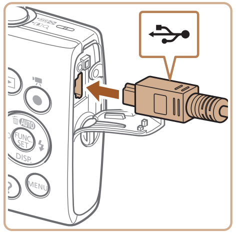
- Windows 7 で手順 2 の画面が表示されないときは、タスクバーの［ ］をクリックします。
- Windows Vista または Windows XP をお使いのときは、手順 2 でカメラの電源を入れるとパソコンに表示される画面で［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックして、CameraWindow を表示します。この操作で画面が表示されないときは、［スタート］メニュー ▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。
- Mac OS で手順 2 の操作をしても CameraWindow が表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。
- ソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
  - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
  - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
  - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
  - OS のバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
  - 動画編集など、ソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

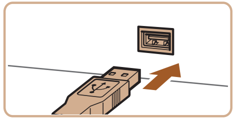
印刷する

撮影した画像は、カメラとプリンターをつないで印刷することができます。また、カメラで画像を指定しておき、一括印刷、写真店への印刷注文、フォトブックの注文や印刷をすることができます。
なお、ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CP シリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

かんたん印刷

撮影した画像は、カメラと PictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を USB ケーブルでつないで、かんたんに印刷できます。

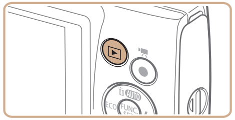




1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。



3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- <▶> ボタンを押して電源を入れます。

5 画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選びます。

6 印刷画面を表示する

- <FUNC SET> を押したあと、［凸］を選び、もう一度 <FUNC SET> を押します。

7 印刷する

- <▲> か <▼> を押して［印刷］を選び、<FUNC SET> を押します。
- 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順 5 からの操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- キヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）については、「プリンター」（82）を参照してください。

静止画

印刷設定をする

1 印刷画面を表示する

- 「かんたん印刷」の手順 1 ～ 6（📖88）の操作で左の画面を表示します。

2 設定する

- <▲> か <▼> を押して項目を選び、<◀> か <▶> を押して内容を選びます。

(日付/画像番号)	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	–
(画像補正)	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	切	–
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目 1	赤く写った目を補正します。
(印刷枚数)	印刷枚数	印刷枚数を指定します。
トリミング	–	印刷する範囲を指定します（📖89）。
用紙設定	–	用紙サイズやレイアウトなどを指定します（📖90）。

静止画

画像を切り抜いて印刷する（トリミング）

画像の一部分を切り抜いて印刷することができます。

1 ［トリミング］を選ぶ

- 「印刷設定をする」の手順 1（📖89）の操作で印刷画面を表示したあと、［トリミング］を選び、<(FUNC/SET)> を押します。
- 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。

2 切り抜く範囲を指定する

- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。
- <▲><▼><◀><▶> を押して枠の位置を変えます。
- <(FUNC/SET)> を押すと枠が回転します。
- <MENU> ボタンを押したあと、<▲> か <▼> を押して［領域確定］を選び、<(FUNC/SET)> を押して設定します。

3 印刷する

- 「かんたん印刷」の手順 7（📖88）の操作で印刷します。

(!)
- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで［日付写し込み (日付)］の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

静止画

用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する

1 ［用紙設定］を選ぶ

- 「印刷設定をする」の手順 1（□89）の操作で印刷画面を表示したあと、［用紙設定］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 用紙サイズを選ぶ

- <▲> か <▼> を押して内容を選び、<FUNC SET> を押します。

3 用紙タイプを選ぶ

- <▲> か <▼> を押して内容を選び、<FUNC SET> を押します。

4 レイアウトを選ぶ

- <▲> か <▼> を押して内容を選びます。
- ［複数画像］を選んだときは、<◀> か <▶> を押して印刷枚数を選びます。
- <FUNC SET> を押します。

5 印刷する

レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1 枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
ID フォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数が L の画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L 判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

静止画

証明写真を印刷する

1 ［ID フォト］を選ぶ

- 「用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する」の手順 1 ～ 4（□90）の操作で［ID フォト］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- <▲> か <▼> を押して項目を選んだあと、<◀> か <▶> を押して長さを選び、<FUNC SET> を押します。

3 印刷する範囲を選ぶ

- 「画像を切り抜いて印刷する（トリミング）」の手順 2（89）の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画

動画を印刷する

1 印刷画面を表示する

- 「かんたん印刷」の手順 1 ～ 6（88）の操作で動画を選び、左の画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

- <▲> か <▼> を押して［ ］を選び、<◀> か <▶> を押して印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1 コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1 枚の用紙に並べて印刷します。［キャプション］を［入］にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。

- 印刷中に <FUNC SET> を押すと、印刷を中止します。
- CP720 ／ CP730 以前のキヤノン PictBridge 対応プリンターでは、［ID フォト］や［連続コマ］は指定できません。

静止画

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（93）や写真店への印刷注文をすることができます（最大 998 画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

静止画

印刷内容を指定する

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

- <MENU> ボタンを押して、［ ］タブの［印刷の設定］を選んだあと、項目を選び、設定します（22）。

印刷タイプ	スタンダード	1 枚の用紙に 1 枚の画像を印刷
	インデックス	1 枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	–
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	–
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	–

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、[❗] が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- [日付] を [入] に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] の両方を [入] にはできません。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。
- 日付の並びは、[YT] タブの [日付 / 時刻] で設定した内容で印刷されます (📖13)。

静止画

1 枚ずつ枚数を指定する

1 [印刷する画像を指定] を選ぶ

- <MENU> ボタンを押して、[🖨] タブの [印刷する画像を指定] を選び、<FUNC SET> を押します。

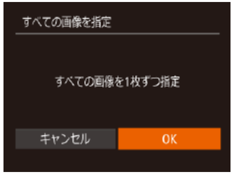
2 画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選び、<FUNC SET> を押します。
- 枚数指定ができるようになります。
- [インデックス] では、指定されると [✓] が表示され、もう一度 <FUNC SET> を押すと解除されて [✓] が消えます。

3 枚数を設定する

- <▲> か <▼> を押して枚数を指定します（最大 99 枚）。
- 手順 2 ～ 3 の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- [インデックス] では枚数の指定ができません。手順 2 の操作で画像のみを選んでください。
- <MENU> ボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

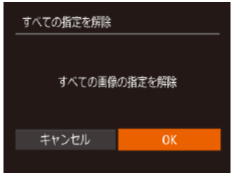
すべての画像を指定する



- 「1 枚ずつ枚数を指定する」の手順 1（□92）の操作で［すべての画像を指定］を選び、<(FUNC SET)> を押します。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<(FUNC SET)> を押します。

静止画

すべての指定を解除する



- 「1 枚ずつ枚数を指定する」の手順 1（□92）の操作で［すべての指定を解除］を選び、<(FUNC SET)> を押します。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<(FUNC SET)> を押します。

静止画

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する

- 印刷指定した画像（□91 ～ 93）があるときは、カメラと PictBridge 対応プリンターをつなぐと左の画面が表示されます。<▲> か <▼> を押して［すぐに印刷］を選び、<(FUNC SET)> を押すと、印刷指定した画像をかんたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

静止画

フォトブック指定

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定（最大 998 画像）し、ソフトウェアを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブック注文するときや、お使いのプリンターで印刷するときに便利です。

指定方法を選ぶ

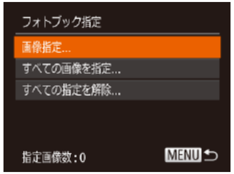
- <MENU> ボタンを押して、［▶］タブの［フォトブック指定］を選んだあと、指定方法を選びます。

- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［!］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

- パソコンに取り込んだあとは、「ソフトウェアの使用説明書」（□85）やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

静止画

1 枚ずつ指定する



1 ［画像指定］を選ぶ

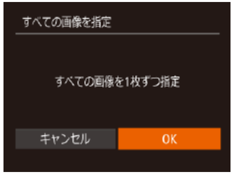
- 「指定方法を選ぶ」（📖93）の操作で［画像指定］を選び、<FUNC SET> を押します。

2 画像を選ぶ

- <◀> か <▶> を押して画像を選び、<FUNC SET> を押します。
- ［✓］が表示されます。
- もう一度 <FUNC SET> を押すと解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- <MENU> ボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

静止画

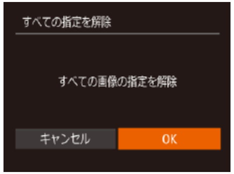
すべての画像を指定する



- 「指定方法を選ぶ」（📖93）の操作で［すべての画像を指定］を選び、<FUNC SET> を押します。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC SET> を押します。

静止画

すべての指定を解除する



- 「指定方法を選ぶ」（📖93）の操作で［すべての指定を解除］を選び、<FUNC SET> を押します。
- <◀> か <▶> を押して［OK］を選び、<FUNC SET> を押します。

静止画 動画

Eye-Fi カードを使う

Eye-Fi カードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前に確認してください（📖2）。

セットアップした Eye-Fi カードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。
画像の転送は Eye-Fi カードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問いあわせください。

- Eye-Fi カードの使用中は、次のことに注意してください。
  - [Eye-Fi 通信］を［しない］に設定（📖96）しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前に Eye-Fi カードを取り出しておいてください。
  - 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくは、カードの使用説明書を参照してください。
  - Eye-Fi 通信の接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
  - Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
  - バッテリーの消耗が早くなります。
  - カメラの動作が遅くなります。［Eye-Fi 通信］を［しない］に設定すると解決することがあります。

Eye-Fi カードをカメラに入れると、撮影画面（情報表示時）や再生画面（簡易情報表示時）で通信状態を確認できます。

（灰色点灯）	未接続		中断
（白点滅）	接続中		通信停止
（白点灯）	転送待機		Eye-Fi カード情報取得エラー*2
（アニメーション）	転送中*1		

＊1 画像の転送中は、節電機能が働きません（📖19）。
＊2 電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。

転送された画像には、［ ］が表示されます。

通信情報を確認する

接続先 SSID や通信状態を確認できます。

- <MENU> ボタンを押して、［ ］タブの［Eye-Fi 設定］を選び、<FUNC SET> を押します。
- ［通信情報一覧］を選び、<FUNC SET> を押します。
- 通信情報一覧が表示されます。

Eye-Fi 通信をしない

Eye-Fi 通信をしない設定にできます。

- <MENU> ボタンを押して、[ƒ†] タブの [Eye-Fi 設定] を選び、<(FUNC/SET)> を押します。
- [Eye-Fi 通信] を選び、[しない] を選びます。

(!)

- Eye-Fi カードを入れていないときや、ライトプロテクトスイッチがある Eye-Fi カードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、[Eye-Fi 設定] が表示されません。そのため、ライトプロテクトスイッチがある Eye-Fi カードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、設定を変えることができませんので注意してください。

付録

カメラを使うときに役立つ情報

故障かな？と思ったら 98
画面に表示されるメッセージ一覧 100
画面の表示内容一覧 102
撮影時（情報表示あり） 102
再生時（詳細情報表示） 103
機能／メニュー 一覧 104
撮影機能一覧 104
FUNC. メニュー 一覧 105
撮影タブメニュー 一覧 107
設定タブメニュー 一覧 109
再生タブメニュー 一覧 109
印刷タブメニュー 一覧 109
再生モードの FUNC. メニュー 一覧 109
日ごろの取り扱いについて 110
主な仕様 110

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- バッテリーを充電してください（11）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（12）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（12）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。バッテリーの端子部が他の金属にふれないようにして、ポケットなどで温めてからお使いください。
- 上記を確認しても、充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（12）。

バッテリーがふくらむ

- バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（83）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（60）は、シャッターボタンを半押ししてください（20）。

暗い場所での画面表示がおかしい（20）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯や LED などの照明下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

画像に日付が写し込まれない

- ［日付 / 時刻］の設定（13）だけでは写し込まれませんので、［日付写し込み］を設定してください（33）。
- ［日付写し込み］が設定（33）できない撮影モード（108）では、写し込みはされません。

シャッターボタンを押したら、画面に［ ］が点滅表示されて撮影できない（27）

シャッターボタンを半押ししたときに、［ ］が表示される（27）

- ストロボモードを［ ］にしてください（55）。
- ISO 感度を高くしてください（49）。
- 三脚などでカメラを固定してください。

IXY 140

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（59）。ただし、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（59）。

画像がボケて撮影される

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（20）。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください（113）。
- ［ランプ設定］を［入］にしてください（37）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AF ロックで撮影してください（53、55）。

シャッターボタンを半押ししても、AF フレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すと AF フレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- ストロボモードを［⚡］にしてください（📖55）。
- 露出補正で明るさを補正してください（📖47）。
- i- コントラストで補正してください（📖49、70）。
- AE ロックまたはスポット測光で撮影してください（📖48）。

被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボモードを［🚫］にしてください（📖32）。
- 露出補正で明るさを補正してください（📖47）。
- AE ロックまたはスポット測光で撮影してください（📖48）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる（📖27）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（📖113）。
- ISO 感度を高くしてください（📖49）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（📖113）。
- ストロボモードを［🚫］にしてください（📖32）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る

- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる

- ISO 感度を低くして撮影してください（📖49）。
- 撮影モードによっては ISO 感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（📖49）。

目が赤く写る（📖35）

- ［ランプ設定］を［入］に設定してください（📖37）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（📖4）が点灯して、約 1 秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。
- 赤目補正で補正してください（📖70）。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（📖76）。

撮影機能や FUNC. メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC. メニュー一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（📖104 ～ 108）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています（📖75、112）。

画面に［❗］が表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（📖76）。
- 画質を変える（📖36）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（📖112）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアの使用説明書」（📖85）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（📖76）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

動画を再生したときに音声が聞こえない

- ［消音］を［する］に設定（📖73）しているときや、音声が小さいときは、音量を調整してください（📖61）。

カード

カードが認識されない

- カードを入れたままで、もう一度電源を入れなおしてください（📖19）。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- <▶> ボタンを押して再生モードにしたあと、<MENU> ボタンを押したまま、<▲> と <FUNC SET> を同時に押します。表示された画面で <◀> か <▶> を押して［B］を選び、<FUNC SET> を押します。

Eye-Fi カード

画像が転送できない（📖95）

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（📖12）。

カードがロックされています

- カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（📖12）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（📖12）。

カードが異常です（📖76）

- 使えるカード（📖2）を初期化して正しい向きで入れても（📖12）同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（📖24、38、46）や編集（📖69～71）はできません。画像を消して（📖67）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（📖12）。

バッテリーを充電してください（📖11）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（📖65）

認識できない画像です／互換性のない JPEG です／画像が大きすぎます／再生できません（MOV）／再生できません（MP4）

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

拡大できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、以下の機能が使えないことがあります。また、動画では、*の機能が使えません。拡大（64）*、回転（68）*、編集（69 ～ 71）*、印刷指定（91）*、フォトブック指定（93）*

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定（91）やフォトブック指定（93）の画像を 998 枚より多く指定しました。指定する画像を 998 枚以下にします。
- 印刷指定（91）やフォトブック指定（93）を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します。
- 保護（65）、消去（67）、印刷指定（91）、フォトブック指定（93）で、501 枚以上の画像を指定しようとしました。

ファイル名が作成できません

- カード内の画像を保存するフォルダの番号が最大（999）になっていて、各フォルダに保存されている画像の番号も最大（9999）になっているため、フォルダの作成や撮影した画像の記録ができません。[ʏʏ] タブで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（76）、カードを初期化します（75）。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は、プリンターにつないでも正しく印刷（88）できないことがあります。

印刷エラー

- 用紙サイズの設定を確認してください（90）。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れなおして、もう一度設定してください。

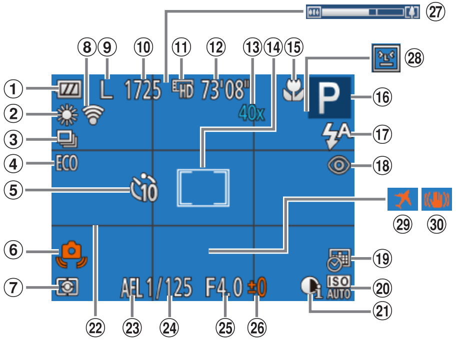
インク吸収体が満杯です

- お使いのキヤノン製インクジェットプリンターに付属のパーソナル機器修理受付センター、またはお近くの修理受付窓口にインク吸収体の交換を依頼してください。

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）



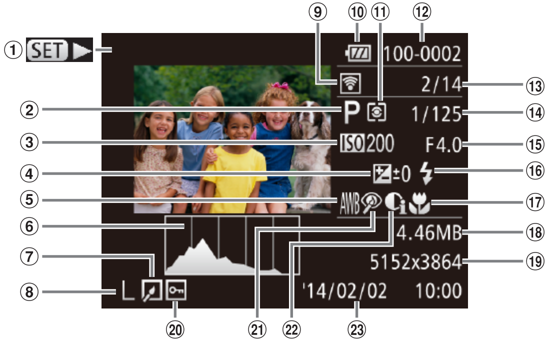
① バッテリー残量表示（□102）
② ホワイトバランス（□50）
③ ドライブモード（□34）
④ エコモード（□34、57）
⑤ セルフタイマー（□31）
⑥ 手ブレ警告（□27）
⑦ 測光方式（□48）
⑧ Eye-Fi 通信状態（□95）
⑨ 記録画素数（□35）
⑩ 撮影可能枚数（□112）
⑪ 動画の画質（□36）
⑫ 撮影可能時間（□112）
⑬ ズーム倍率（□30）
⑭ AF フレーム（□51）、スポット測光枠（□48）
⑮ フォーカスゾーン（□51）、AF ロック（□55）
IXY 140 手ブレ補正アイコン（□28）
⑯ 撮影モード（□104）、シーンアイコン（□28）
⑰ ストロボモード（□32、55）
⑱ 赤目自動補正（□35）
⑲ 日付写し込み（□33）
⑳ ISO 感度（□49）
㉑ i- コントラスト（□49）
㉒ グリッドライン（□57）
㉓ AE ロック（□48）、FE ロック（□56）
㉔ シャッタースピード
㉕ 絞り数値
㉖ 露出補正量（□47）
㉗ ズームバー（□25）
㉘ 目つむり検出（□36）
㉙ エリア設定（□74）
㉚ 手ブレ補正（□59）

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを充電してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

再生時（詳細情報表示）



① 動画（📖25、61）
② 撮影モード（📖104）
③ ISO 感度（📖49）、倍速（📖42）
④ 露出補正量（📖47）
⑤ ホワイトバランス（📖50）
⑥ ヒストグラム（📖62）
⑦ 画像編集（📖69～71）
⑧ 記録画素数（📖35）、MOV（動画）
⑨ Eye-Fi 転送済み画像（📖95）
⑩ バッテリー残量表示（📖102）
⑪ 測光方式(📖48)
⑫ フォルダ番号－画像番号（📖76）
⑬ 再生画像番号／総画像数
⑭ シャッタースピード（静止画）、画質／フレーム数（動画）（📖36）
⑮ 絞り数値
⑯ ストロボ発光（📖55）
⑰ フォーカスゾーン（📖51）
⑱ ファイルサイズ
⑲ 静止画：記録画素数（📖112）
動画：再生時間（📖111）
⑳ 保護（📖65）
㉑ 赤目補正（📖35、70）
㉒ i- コントラスト（📖49、70）
㉓ 撮影日時(📖13)

- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります（📖83）。

「見る」（📖61）で表示される動画操作パネル一覧

↺	終了
▶	再生
▎▶	スロー再生（<◀> か <▶> を押して再生速度を変更）（音声は再生されません）
▎◀	前スキップ*（<FUNC SET> を押したままにすると連続してスキップ）
◀▎	フレーム戻し（<FUNC SET> を押したままにすると早戻し）
▎▶	フレーム送り（<FUNC SET> を押したままにすると早送り）
▶▎	次スキップ*（<FUNC SET> を押したままにすると連続してスキップ）
🖶	PictBridge 対応プリンターとつないだとき（📖88）に表示

＊約 4 秒前または後のフレームを表示

- 動画再生中に <◀> か <▶> を押すと、前スキップ、次スキップができます。

機能／メニュー 一覧

撮影機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	LIVE	*1											
ストロボ（32、55）	ϟA	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	–	–
	ϟ	–	O	O	–	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	–	O
	ϟ★	*2	O	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	ⓕ	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
AE ロック / FE ロック（48、56）*3		–	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
AF ロック（55）		–	O	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	O
エコモード（34、57）	入、切	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
画面の表示（20）	情報表示なし	O	O	–	O	O	–	O	–	–	–	–	O	O	O	O	O
	情報表示あり	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O

＊ 1 IXY 120 のみ
＊ 2 選択不可。ただし状況に応じて［ϟ★］
＊ 3 FE ロックは［ⓕ］では不可

O 選択可能または自動設定 – 選択不可

FUNC. メニュー一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	LIVE	*1												
測光方式（48）																	
		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
		–	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ホワイトバランス（50）																	
	AWB	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
		–	O	–	O	–	O	O	–	–	–	–	–	–	–	–	O
ISO 感度（49）																	
	AUTO	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	–
	100、200、400、800、1600	–	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	O
露出補正（47）		–	O	*2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	–	O	O	–
セルフタイマー（31）																	
		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
		O	O	O	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
セルフタイマー設定（32）																	
	時間*3	O	O	O	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
	枚数*4	O	O	O	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
フォーカスゾーン（51）																	
		O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
		–	O	O	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	–	O
ドライブモード（34）																	
		O	O	O	*5	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O
		O	O	–	*5	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	O	–

O 選択可能または自動設定　–　選択不可

＊ 1 IXY 120 のみ
＊ 2 ［暗く - 明るく］で設定
＊ 3 枚数設定不可のモードでは 0 秒設定不可
＊ 4 枚数設定不可のモードでは 1 枚固定
＊ 5 シーンによっては連続撮影して合成（40）

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	LIVE	*1												
記録画素数（35）																	
	L	O	O	O	–	O	O	–	O	O	O	O	O	O	O	O	O
	M1 M2 S	O	O	–	–	O	O	–	–	–	–	–	–	–	O	O	O
	M	–	–	–	O	–	–	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	W	O	O	–	–	O	O	–	–	O	–	–	–	–	O	O	O
動画の画質（36）	HD VGA	O	O	O	O	O	O	O	O	*2	O	O	O	O	O	O	O

＊１ IXY 120 のみ
＊２ 記録画素数の設定に連動して自動設定（42）

O 選択可能または自動設定 – 選択不可

撮影タブメニュー一覧

機能 ＼ 撮影モード	AUTO	P	LIVE	*1												
AF フレーム（51）																
顔優先 AiAF	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	○	–	○
キャッチ AF	–	○	○	○	○	–	○	–	–	–	○	○	○	○	–	○
中央	–	○	○	○	○	–	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○
デジタルズーム（30、57）																
入	○	○	○	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○
切	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピント位置拡大（54）																
入	–	○	○	○	○	○	○	–	–	–	○	○	○	○	–	○
切	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サーボ AF（53）																
入	–	○	○	○	○	–	○	–	–	–	○	○	○	○	–	–
切	*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンティニュアス AF（54）																
入	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	–	○
切	–	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ランプ設定（37）																
入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○
切	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤目自動補正（35）																
入	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–	–	–	–	○	–	○
切	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○
i- コントラスト（49）																
オート	○	○	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–
切	–	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○
撮影直後のレビュー表示（58）																
表示時間：切、クイック、2 秒、4 秒、8 秒、ホールド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
表示情報：非表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
表示情報：詳細表示	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＊ 1 IXY 120 のみ
＊ 2 動きを検出したときは［入］

○ 選択可能または自動設定 – 選択不可

機能			AUTO	P	LIVE	*1												
目つむり検出（36）																		
	入		○	○	○	–	○	○	○	–	–	–	–	○	○	○	–	–
	切		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グリッドライン（57）																		
	入		–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
手ブレ補正設定（59）*2																		
	手ブレ補正	切、入	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		撮影時	–	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ダイナミック IS	1	○	○	○	–	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○
		2	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日付写し込み（33）																		
	切		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日付のみ、日付＋時刻		○	○	○	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○

＊1 IXY 120 のみ
＊2 IXY 140 のみ

○ 選択可能または自動設定 – 選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
消音	📖73
音量	📖73
機能ガイド	📖73
日付/時刻	📖73
エリア設定	📖74
レンズ収納時間	📖74
節電	📖19、74
液晶の明るさ	📖75
起動画面	📖75

項目	参照ページ
カードの初期化	📖75、76
画像番号	📖76
フォルダ作成	📖77
ビデオ出力方式	📖83
Eye-Fi 設定	📖95
認証マーク表示	📖77
言語	📖14
カメラ設定初期化	📖78

再生タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
スライドショー	📖64
消去	📖67
保護	📖65
回転	📖68
フォトブック指定	📖93
i- コントラスト	📖70

項目	参照ページ
赤目補正	📖70
リサイズ	📖69
再生効果	📖61
縦横自動回転	📖69
再生開始位置	📖61

印刷タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
印刷	–
印刷する画像を指定	📖92
すべての画像を指定	📖93

項目	参照ページ
すべての指定を解除	📖93
印刷の設定	📖91

再生モードの FUNC. メニュー 一覧

項目	参照ページ
回転	📖68
保護	📖65
印刷	📖88

項目	参照ページ
画像の検索	📖63
スライドショー	📖64

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。
- バッテリーを長期間保管するときは、バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、ビニール袋などに入れて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1 年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。

主な仕様

カメラ部有効画素数（最大）	IXY 140 約 2000 万画素 IXY 120 約 1600 万画素
レンズ焦点距離	IXY 140 10 倍ズーム：4.3 (W) – 43.0 (T) mm （35mm フィルム換算：24 (W) – 240 (T) mm） IXY 120 8 倍ズーム：5.0 (W) – 40.0 (T) mm （35mm フィルム換算：28 (W) – 224 (T) mm）
液晶モニター	2.7 型 TFT カラー液晶 有効画素数：約 23.0 万ドット
ファイルフォーマット	DCF 準拠、DPOF 対応（Version 1.1）
データタイプ	静止画：Exif 2.3（JPEG） 動画：MOV（映像：MPEG-4 AVC / H.264、音声：リニア PCM（モノラル））
インターフェース	Hi-Speed USB アナログ音声出力（モノラル） アナログ映像出力（NTSC/PAL）
電源	バッテリーパック NB-11LH/NB-11L AC アダプターキット ACK-DC90
大きさ（CIPA 準拠）	IXY 140 95.3 x 56.8 x 23.7 mm IXY 120 95.2 x 54.3 x 22.1 mm

お使いになる前に
基本編
活用編
カメラを知る
オートモード
いろいろな撮影モード
P モード
再生モード
設定メニュー
アクセサリー
付録
索引

質量（CIPA 準拠）	IXY 140 約 142 g（電池・メモリーカード含む） 約 125 g（本体のみ） IXY 120 約 127 g（電池・メモリーカード含む） 約 112 g（本体のみ）

デジタルズームの焦点距離（35mm フィルム換算）

IXY 140

24 – 960 mm

IXY 120

28 – 896 mm

- 光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離

撮影できる枚数・時間、再生できる時間

IXY 140

撮影枚数		約 230 枚
	エコモード時	約 310 枚
動画撮影時間＊1		約 1 時間
	連続時＊2	約 1 時間 50 分
再生時間		約 5 時間

＊1 カメラの初期状態で、撮影 / 一時停止、電源の入 / 切、ズームなどの操作をしたときの時間です。
＊2「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。

- 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数・時間は、撮影条件により少なくなることがあります。
- フル充電状態での枚数・時間です。

IXY 120

撮影枚数		約 230 枚
	エコモード時	約 310 枚
動画撮影時間＊1		約 55 分
	連続時＊2	約 1 時間 40 分
再生時間		約 4 時間

＊1 カメラの初期状態で、撮影 / 一時停止、電源の入 / 切、ズームなどの操作をしたときの時間です。
＊2「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。

- 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数・時間は、撮影条件により少なくなることがあります。
- フル充電状態での枚数・時間です。

1 枚のカードに撮影できる枚数

IXY 140

記録画素数（ピクセル）	1 枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
	8 GB	32 GB
L（ラージ）20M/5152x3864	1395	5632
M1（ミドル 1）10M/3648x2736	2558	10326
M2（ミドル 2）3M/2048x1536	8469	34184
S（スモール）0.3M/640x480	40937	165225
W（ワイド）5152x2896	1753	7080

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

IXY 120

記録画素数（ピクセル）	1 枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
	8 GB	32 GB
L（ラージ）16M/4608x3456	1705	6883
M1（ミドル 1）8M/3264x2448	3069	12391
M2（ミドル 2）3M/2048x1536	8469	34184
S（スモール）0.3M/640x480	40937	165225
W（ワイド）4608x2592	2116	8545

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

1 枚のカードに撮影できる時間

画質	1 枚のカードに撮影できる時間	
	8 GB	32 GB
HD	1 時間 11 分 43 秒	4 時間 49 分 46 秒
VGA	3 時間 24 分 26 秒	13 時間 45 分 52 秒

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 一度の撮影で動画の容量が 4 GB になるか、撮影時間が［HD］では約 29 分 59 秒、［VGA］では約 1 時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SD スピードクラス 2 以上のカードを使用することをおすすめします。

ストロボ調光範囲

IXY 140

もっとも広角側（ ）にしたとき	50 cm – 4.0 m
もっとも望遠側（ ）にしたとき	1.0 – 2.0 m

IXY 120

もっとも広角側（ ）にしたとき	50 cm – 3.0 m
もっとも望遠側（ ）にしたとき	1.3 – 1.5 m

撮影距離

IXY 140

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側（ ）にしたとき	もっとも望遠側（ ）にしたとき
AUTO	–	1 cm – ∞	1 m – ∞
上記以外		5 cm – ∞	1 m – ∞
	*	1 – 50 cm	–
	*	3 m – ∞	3 m – ∞

＊撮影モードによっては、選択できません。

IXY 120

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側（ ）にしたとき	もっとも望遠側（ ）にしたとき
AUTO	–	1 cm – ∞	1.3 m – ∞
上記以外		5 cm – ∞	1.3 m – ∞
	*	1 – 50 cm	–
	*	3 m – ∞	3 m – ∞

＊撮影モードによっては、選択できません。

連続撮影の速さ

IXY 140

撮影モード	速さ
AUTO　P	約 0.8 枚 / 秒
	約 2.2 枚 / 秒

IXY 120

撮影モード	速さ
AUTO　P	約 0.8 枚 / 秒
	約 3.3 枚 / 秒

シャッタースピード

［AUTO］モードで自動設定される範囲	1 – 1/2000 秒

絞り

F 値	IXY 140 F3.0/F9.0 (W)、F6.9/F20 (T) IXY 120 F3.2/F9.0 (W)、F6.9/F20 (T)

バッテリーパック NB-11LH

形式：　リチウムイオン充電池
公称電圧：　DC 3.6 V
公称容量：　800 mAh
充放電回数：約 300 回
使用温度：　0 – 40℃
大きさ：　34.6 x 40.1 x 5.2 mm
質量：　約 15 g

バッテリーパック NB-11L

形式：　リチウムイオン充電池
公称電圧：　DC 3.6 V
公称容量：　680 mAh
充放電回数：約 300 回
使用温度：　0 – 40℃
大きさ：　34.6 x 40.2 x 5.2 mm
質量：　約 13 g

バッテリーチャージャー CB-2LF

定格入力：　AC 100 V – 240 V（50/60 Hz）
定格出力：　DC 4.2 V、0.41 A
充電時間：　約 2 時間 20 分（NB-11LH 充電時）、約 2 時間（NB-11L 充電時）
充電表示：　充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯（2 灯式）
使用温度：　5 – 40℃

索引

【英数字】

AC アダプターキット................81, 84
AE ロック 48
AF フレーム.. 51
AF ロック... 55
AV ケーブル 81, 83
CameraWindow（パソコン)........... 85
DC カプラー 84
DPOF... 91
Eye-Fi カード 2, 95
FE ロック 56
FUNC. メニュー
　一覧.................................. 105, 109
　基本操作 21
ISO 感度.. 49
i- コントラスト 49, 70
P（撮影モード)................................ 47
PictBridge（ピクトブリッジ)..82, 88
SD/SDHC/SDXC カード → カード

【あ】

赤目補正 35, 70
アクセサリー 81
色あい（ホワイトバランス) 50
印刷... 88
打上げ花火（撮影モード) 40
エコモード.................................34, 57
エラー表示 100
遠景（フォーカスゾーン) 51
オートモード（撮影モード)....... 15, 25
オールドポスター（撮影モード)........ 41
音 73

【か】

カード 2
　撮影できる時間........................ 112
海外で使う 74
回転... 68
顔セルフタイマー（撮影モード)........ 44
顔優先 AiAF（AF フレームモード)... 52
拡大表示 64
画像
　消す 67
　再生 → 見る
　表示時間 58
　保護 65
画像番号 76
画像をパソコンに取り込む 86
家庭用電源 84
カメラ
　設定初期化..................................... 78
画面
　表示一覧 102, 103
　表示言語 14
　メニュー → FUNC. メニュー、
　　　　　　メニュー
キャッチ AF.. 52
魚眼風（撮影モード)......................... 41
記録画素数（画像の大きさ) 35
グリッドライン.................................. 57
消す 67
検索... 63
極彩色（撮影モード)......................... 41
故障... 98

【さ】

サーボ AF.. 53
再生 → 見る
撮影
　撮影情報 102
　撮影日時 → 日付／時刻
ジオラマ風（撮影モード) 42
消去 → 消す
初期状態 → 設定初期化
ズーム 15, 25, 30
ストラップ 2, 11
ストロボ
　常時発光 55
　スローシンクロ............................ 55
　発光禁止 32, 56
スノー（撮影モード)......................... 40
スライドショー.................................. 64
世界時計 74
設定初期化 78
節電... 19
セルフタイマー.................................. 31
　2 秒セルフタイマー.................... 31
　顔セルフタイマー（撮影モード)... 44
　タイマー時間と撮影枚数を変える... 32
測光方式 48
ソフトウェア
　インストール................................. 85
　パソコンへの取り込み 86

【た】

端子...83, 88
中央（AF フレームモード)................ 53
長秒時撮影（撮影モード) 45
デジタル IS（撮影モード) 40
デジタルズーム..........................30, 57
手ブレ補正 59
テレビで見る 83
電源... 81
→ AC アダプターキット
→ バッテリー
→ バッテリーチャージャー（充電器)
電池 → 日付／時刻（日付／時刻用電池)
トイカメラ風（撮影モード) 43
動画
　画質（記録画素数 /
　フレーム数)................................... 36
　撮影時間 112
ドライブモード.................................. 34
トリミング（画像の切り抜き) 89

【な】

日時 → 日付／時刻

【は】

バッテリー
　エコモード.............................34, 57
　残量表示 102
　充電 11
　節電 19
バッテリーチャージャー
（充電器) 2, 81
花火 → 打上げ花火（撮影モード)

ピクトブリッジ（PictBridge）.. 82, 88
日付／時刻
　画像への写し込み 33
　世界時計 74
　設定 13
　日付／時刻用電池 14
　変更 13
表示言語 14
ピント合わせ
　AF フレーム 51
　AF ロック 55
　サーボ AF 53
　ピント位置拡大 54
フォーカスゾーン
　遠景 51
　マクロ 51
フォーカスロック 53
フォトブック指定 93
付属品 2
プリント → 印刷
プログラム AE 47
編集
　i- コントラスト 70
　赤目補正 70
　リサイズ（画像を小さくする）..... 69
ポートレート（撮影モード）........ 39
保護 65
ホワイトバランス（色あい）........ 50

【ま】

マクロ（フォーカスゾーン）........ 51
マニュアルホワイトバランス 50
見る 16, 61
　1 枚表示 16, 61
　インデックス表示 62
　拡大表示 64
　画像の検索 63
　スライドショー 64
　テレビで見る 83
目つむり検出 36
メニュー
　一覧 104
　基本操作 22
メモリーカード → カード
モノクロ（撮影モード）........ 43

【ら】

ライブビューコントロール
（撮影モード）........ 39
ランプ 23, 37
リサイズ（画像を小さくする）........ 69
リストストラップ → ストラップ
連続撮影（連写）........ 34
ローライト（撮影モード）........ 39
露出
　AE ロック 48
　FE ロック 56
　補正 47

【わ】

ワイド（記録画素数）........ 35

注意
指定外のバッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みのバッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打切り後 5 年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応 OS が変更になることがあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

適正な動作のために、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いいただくことを推奨いたします。

商標、ライセンスについて

- DCF は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- Microsoft、Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OS は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- SDXC ロゴは SD-3C, LLC. の商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

このガイドについて

- 内容を無断で転載することは、禁止されています。
- 記載されている数値はすべて当社試験基準によります。
- 内容および製品の仕様や外観を将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 本製品を運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター
050-555-90005

受付時間：平日 9：00 ～ 20：00
土・日・祝日 10：00 ～ 17：00
（1 月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9630 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/cdc

キヤノンサポートページ
http://canon.jp/support

CANON iMAGE GATEWAY
http://www.imagegateway.net

リチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」にご注意下さい
国内・国外を問わず、ネットオークションでリチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」が頻繁に出回っておりますので十分にご注意ください。詳細は以下の URL よりご覧ください。
http://cweb.canon.jp/e-support/info/battery-anno.html